

目 次

発刊に際して	1
本研究の趣旨	2
まえがき	3
調査協力委員	5
I 調査の概要	6
1 調査研究の目的	6
2 調査研究の方法	6
3 調査の対象・回収率	8
4 調査の実施	9
II 調査結果	10
1 学習機器の保有の実態	10
2 学習機器の購入の動機と理由	20
3 学習機器の利用状況	24
4 学習機器の利用による効果	34
5 学習機器の利用上の問題点	38
6 テレビの利用による効果と問題点	42
7 ラジオの利用による効果と問題点	48
8 学習機器に対する関心	54
III 調査の考察	58
1 学習機器利用の改善についての考察	58
2 学校と家庭の機器利用の連携方法	64
調査協力校一覧	66
〈付録〉「学習機器に関する調査問題」質問紙	70

調査協力委員

- 竹 田 忠 夫 (東京都世田谷区立松沢小教諭)
川 名 輝 彦 (東京都稲城市立第六小教諭)
横 山 勲 (東京都文京区立林町小教諭)
小 佐 々 晋 (東京都新宿区立戸山中教諭)
高 山 博 之 (東京学芸大付属小金井中教諭)
永 井 政 直 (財団教育調査研究部長)
(京浜女子大学専任講師)

I 調査の概要

1. 調査研究の目的

最近になって、各学校では授業の効率を高めるために、各種の学習機器を導入し利用するようになった。同時に、家庭においても児童・生徒の家庭学習に、さまざまな学習機器が普及し、新しい家庭学習の形態がみられるようになった。

かかる新しい状況によって、学校及び家庭の学習はどんな影響を受け、どのように変わろうとしているのかその実態を明らかにし、実態把握に立つ展望が重要な課題であると考えられる。

本調査研究では、上記の現状に立ち「学校および家庭における学習機器の利用状況の比較研究」という研究テーマを設定し、小・中学校の児童・生徒や学校での学習機器の利用状況、利用方法、利用の効果、利用の問題などについての実態を正しく把握し、その上で学校と家庭の学習における学習機器利用の実態、利用の特性や問題点を比較考察して、学習機器利用の改善方法並びに、学校と家庭における機器利用についての連携方法について探ってみたい。

2. 調査研究の方法

本調査研究は、①学習機器に関する基礎資料の作成 ②調査票の作成 ③調査 ④集計 ⑤考察という手順で行った。

(1) 学習機器に関する基礎資料の作成

本調査研究を行うために最も重要なことは、学校および家庭に普及している学習機器の種類についての把握である。どんな学習機器が製作され販売されているのか、また、どんな目的で製作された機器であるのか、調査研究を行う必要があった。

そこで、日本視聴覚教具連合会（視具連）や各学習機器のメーカーの協力を得て、「視聴覚機器ハンドブック」「学習機器カタログ」を入手し、①学習機器の用途別大分類 ②各学習機器の種類 ③各学習機器の用途別分類を行った。

この段階で、各メーカーによるさまざまな商品名の学習機器を、一定の名称に統一した。名称の統一にあたっては、文部省社会教育局の「学校及び社会教育施設における視聴覚教育設備等の状況調査報告」（56年3月）と、文部省の「教材基準」の機器分類による名称に基づいて行った。学習機器の種類を選択にあたっては、学校と家庭の両面の実態に即応し、調査が的確に実施できるように配慮した。

学習機器に関する基礎資料を作成することによって、学習機器に対する各委員の共通理解が深まり、また、客観性、信頼性のある調査票の作成を行うことができた。

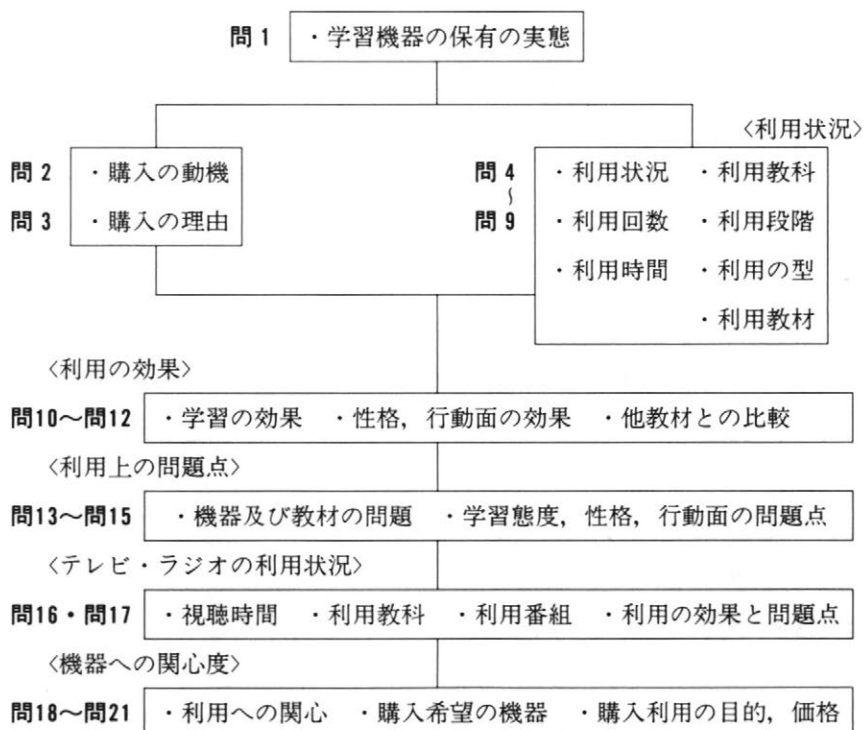
(2) 調査票の作成

調査票の作成にあたって、特に問題となったのは次の諸事項で、これらの事項については、十分に検討を加えて調査問題を作成するように努めた。

- ① 学習機器の種類と選択
- ② 学校と家庭の共通問題の選択
- ③ 各問題における選択肢の決定
- ④ 学習機器利用による効果と問題点についての問題作成
- ⑤ 学習機器についての関心度や今後の利用についての問題作成
- ⑥ テレビ・ラジオの利用についての問題作成

調査問題は、全体で21問からなり、次のような構成になっている。

調査問題の構成



8 I 調査の概要

前掲の構成のように、問題作成にあたっては、①学習機器の保有の実態 ②購入の動機と理由 ③学習機器の利用状況の実態 ④学習機器の利用による効果 ⑤学習機器の利用による問題点 ⑥テレビ・ラジオの利用状況、利用の効果、利用の問題点 ⑦学習機器に対する関心度という分類からの出題になっている。特に、利用の効果の反面としてどんな問題点が生じているかが把握できるように、問題作成に留意した。効果と問題点を相関的に考察することによって、機器利用の改善方法を明らかにしたいと考えたからである。

21問の各問題において、学校と家庭（児童・生徒）の両方を対象としている共通問題と、学校と家庭のどちらかを対象としている個別問題に分けてみると、次のようになる。

① 共通問題（学校と家庭の両方を対象）

- ・問1 保有の実態
- ・問2 購入の動機
- ・問3 購入の理由
- ・問4 利用回数
- ・問5 利用時間
- ・問6 利用教科
- ・問9 利用教材
- ・問10 学習の効果
- ・問12 学習機器の効果
- ・問13 機器および教材の問題点
- ・問16 テレビの利用状況
- ・問17 ラジオの利用状況
- ・問18 機器への関心度
- ・問19 購入希望の機器
- ・問20 購入機器の利用教科
- ・問21 購入希望の価格

② 個別問題（学校と家庭のどちらかを対象）

〈学校だけを対象〉

- ・問7 利用の学習段階

〈家庭だけを対象〉

- ・問8 利用の学習型
- ・問11 性格、行動面の効果
- ・問14 学習態度の問題点
- ・問15 性格、行動面の問題点

上述のように、できるだけ共通問題を作成した。共通問題を多くすることによって、学習機器の購入の動機や利用状況、利用の効果、問題点などについて比較し、相違点や類似点を考察しようとした。しかし、回答が求めにくいと思われる5問については、個別問題によって調査することにした。

3. 調査の対象・回収率

本調査研究の調査の対象は、次の通りである。

- ① 全国公立小学校の児童の家庭（父親・母親）
- ② 全国公立中学校の生徒の家庭（父親・母親）

③ 全国公立小学校の教員

④ 全国公立中学校の教員

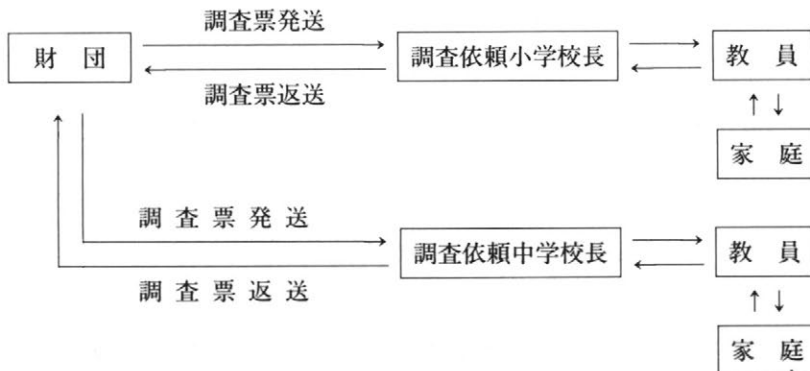
調査にあたっては、児童・生徒・教員の所属学年や調査人数を均等にし、しかも、大都市、中小都市、町村など回答者の地域形態についても配慮した。調査校の選定は、全国公立学校名簿により無作為に抽出し、直接学校に調査の趣旨を述べた依頼状と調査票を送付した。

回 収 率

	調査依頼人数	回収人数	回収率
小学校児童の家庭	1600人	800人	50.0%
中学校生徒の家庭	476人	138人	28.9%
小 学 校	140校	52校	37.1%
中 学 校	66校	16校	24.2%

4. 調査の実施

- (1) 調査時期 ・昭和57年6月中旬～7月中旬 約1か月間
 (2) 調査方法 ・調査依頼の小・中学校を通し質問紙調査により実施
 (3) 調査系統



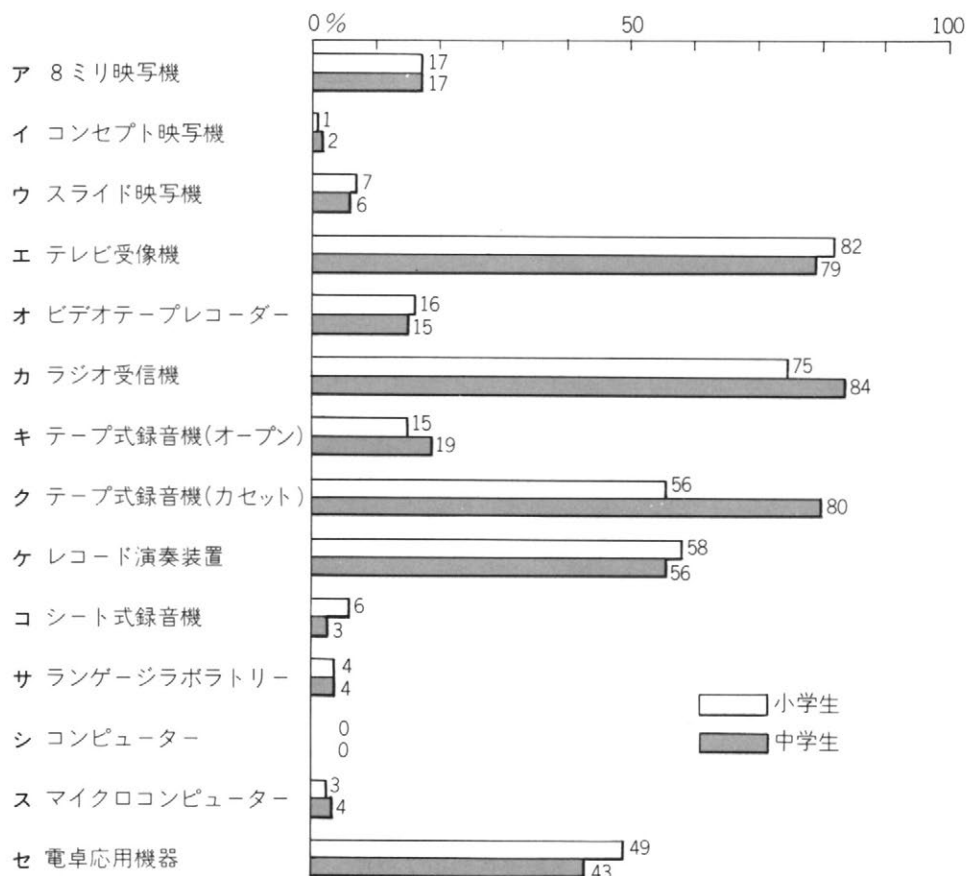
上図のように、財団から調査票を直接学校に送付し、調査が実施できた学校から調査票を郵送してもらう系統で調査を実施した。

II 調査結果

1 学習機器の保有の実態

(1) 家庭における学習機器保有の実態

問1 図1 家庭における保有の実態

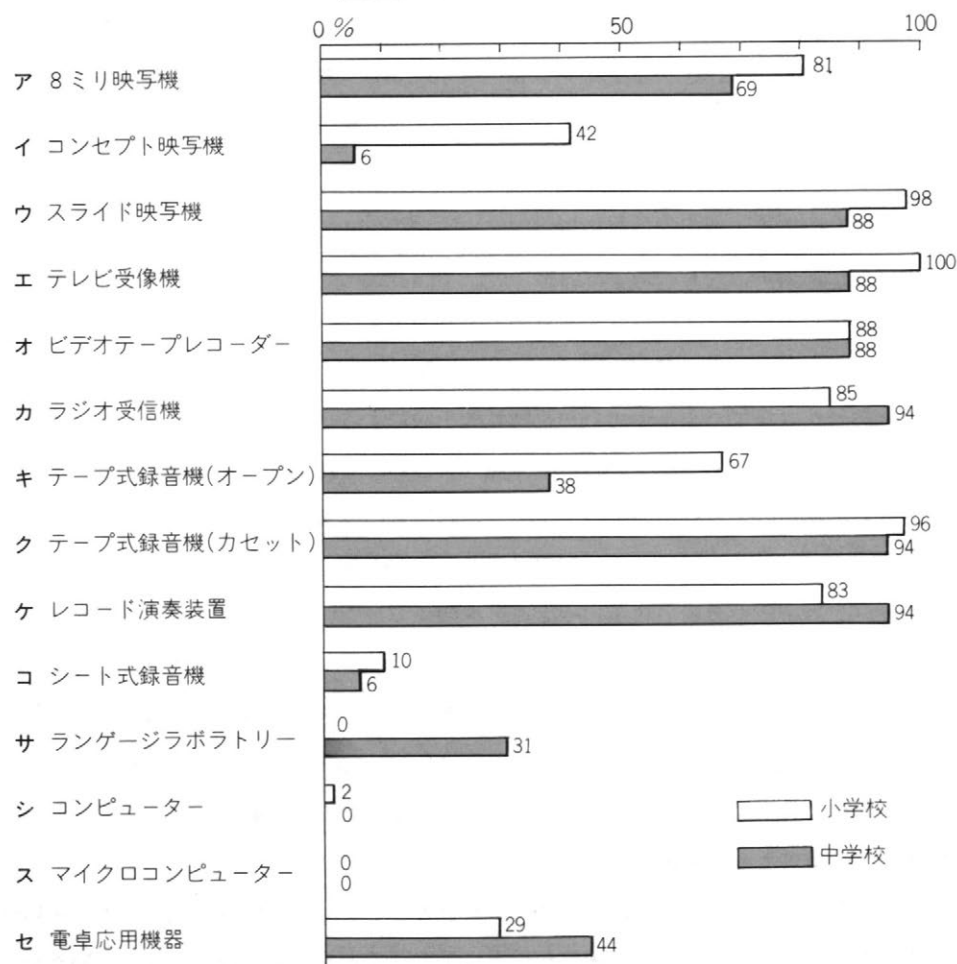


①いわゆる家電製品の保有率が高く、学習専用機器は低い 予想されたことではあるが、テレビ受像機、ラジオ受信機、テープ式録音機(カセット)、次いでレコード演奏装置、電卓の保有率が高い。いずれも家庭での購入の目的は、生活情報の入手や娯楽など家庭生活の充実・向上の要求に根ざしていると考えられる。なお、テレビ受像機に関しては、普及率の高さの割に、

調査結果が80%台と低いのは、若干の無記入(小学生4%,中学生3%弱)があったことと、質問の「児童・生徒の学習用として」という前提にこだわり、保有していても「無」回答になった家庭があったためと推定される。ただし、昭和55年10月の国勢調査の際のデータ(全国3600万世帯のうち保有する家庭数約3000万世帯、約83%)には近い数といえる。

以上の機器に対して、本来が学習専用と考えられる機器の保有は低率である。この中には、大型のコンピューターを利用するものやランゲージラボラトリーなど、家庭向きでないものも含まれるが、比較的開発の早かったシート式録音機でも小学生の家庭で6%弱となっている。むしろ、新しい機器であるマイクロコンピューター応用機器の伸び(中学生家庭4%弱)の方が注目される。なお、調査結果に見られるランゲージラボラトリー(小・中ともに4%弱)は、学校用途のものとは異なり、語学練習機能を付加したテープ式録音機(カセット)の一種であろう。

問1 図2 学校における保有の実態



②**小学生と中学生の家庭の比較** 調査結果から見て両者に利用の差が見られるのは、テープ式録音機(カセット)とラジオ受信機で、いずれも中学生の保有率が高い。テープ式録音機(カセット)は英語学習や手軽な音楽鑑賞用途に、ラジオ受信機は各種の講座や音楽番組その他の聴取用として、中学生になると急激に利用が高まる機器である。

シート式録音機は逆に保有率・利用率(後掲)ともに小学生の家庭の方が高いが、これは利用できる市販ソフトウェアに関係がありそうである。このほか、電卓応用機器にも差が見られるが、これについては利用者の項で触れる。また、テープ式録音機(オープン)は(カセット)に対して、いわば旧型機に相当するもので、中学生の家庭の保有率が高いのは、その普及の著しい時代と購入の時期が一致していたことと関係があると思われる。

その他の機器については小学生と中学生との差がほとんどない。これは前述したように購入の主目的が、直接学習用をねらっていないためであると考えられる。

(2) 学校における学習機器保有の実態

①**教材の提示を主な機能とする機器の保有率が高い** テレビ受像機、スライド映写機、ラジオ受信機、テープ式録音機、ビデオテープレコーダー、8ミリ映写機など、どちらかといえば、集団を対象に教材を一斉に提示することを主な機能とする機器の保有率が高い。これに対して小集団や個別に教材を提示することを主目的とする機器(コンセプト映写機やシート式録音機)の保有率は低く、個別学習用の機器(コンピューターやマイクロコンピューター)はほとんど保有していないのが実情である。

②**小学校と中学校の比較** 英語教育を主目的とするランゲージラボラトリーや、数学科の教材としても使用する電卓応用機器(主に計算専用機)を除いて、一般に小学校の保有率が高い。これは、発達段階から見て、小学生の方が視聴覚的手法による指導が有効なこと、また、学級担任制のため、専門的内容を視聴覚教材で補う傾向が強いことがあげられよう。また、ラジオやテレビの番組の利用は、教科担任制の中学校では時間割の関係で一般に録音や録画によらなければ使えないのに対し、小学校は直接利用できる利点がある。小学校のテレビ受像機の保有率が高いのは、このような番組の利用しやすさと無関係ではないと思われる。

ラジオ受信機についても、保有率の点では中学校が高いが、実際の利用率(後掲)では小学校が高いのは同じ理由からであろう。テープ式録音機のうちオープンリールの保有率が小学校の方が高いが、これは中学生にくらべて早くからテープ式録音機の利用が進んでいたため、カセットが普及する前に購入したものが残っていると解釈するのが妥当であろう。

(3) 各機器の保有率と利用率の関係

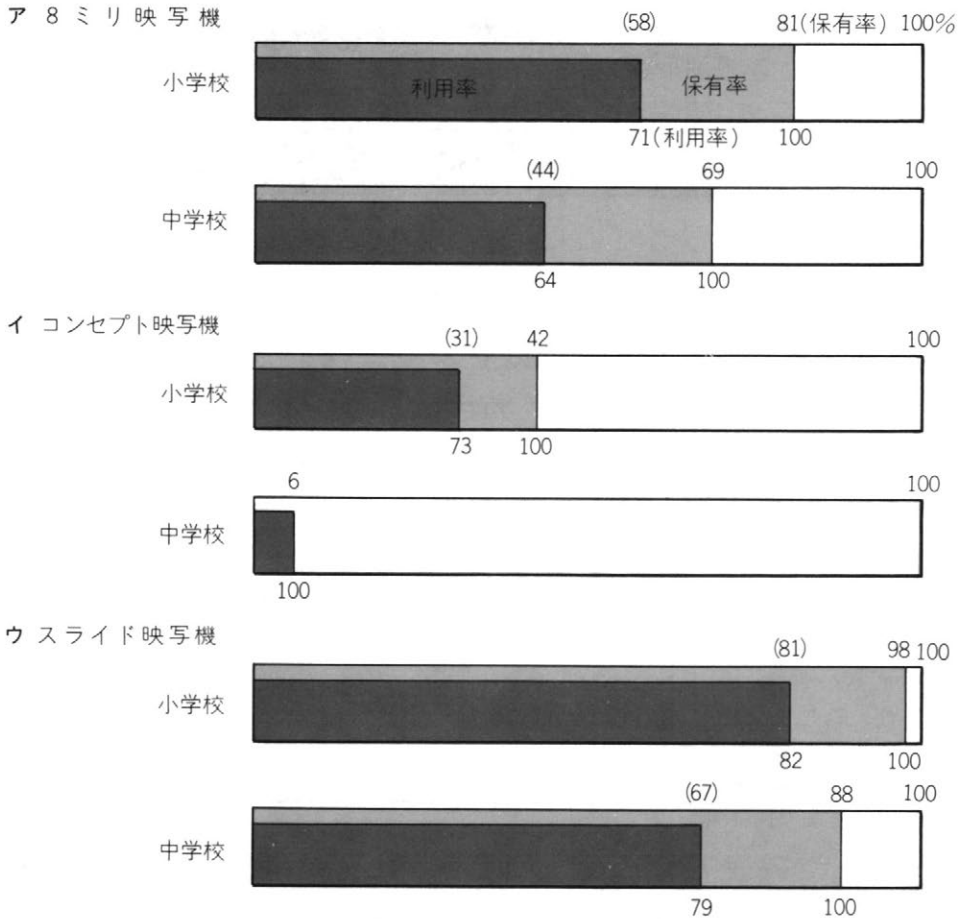
調査では、各家庭、各学校での機器の保有の有無とともに、その機器が実際に学習用に使われているかどうかを質問した。その結果が以下に示す図である。図の数字上段は、回答全数に

に対する保有率，下段は保有の回答に対する学習への利用率をいずれもパーセントで表示している。なお，参考のために上段に()で，回答全数に対する利用率を付記した。

① 8ミリ映写機，コンセプト映写機，スライド映写機 この3機種は家庭での学習利用が0%であったので，小学校と中学校について比較することにする。

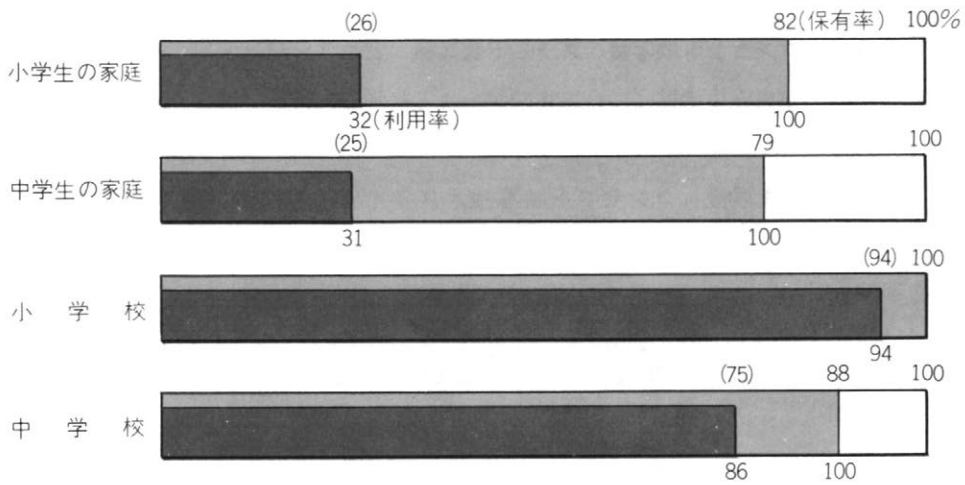
問1-ア・イ・ウ

図3 8ミリ映写機・コンセプト映写機，スライド映写機の保有率と利用率



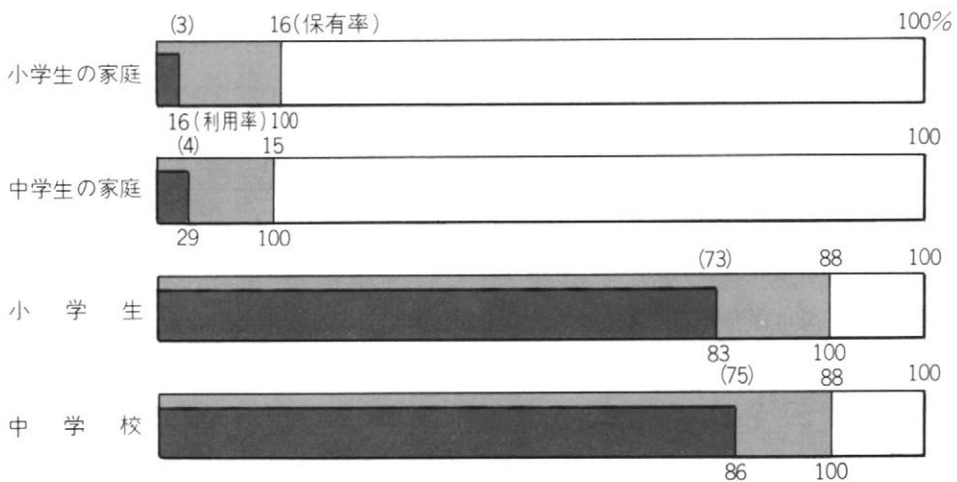
どの機種についても保有率とともに全回答数に対する利用率は小学校が高い。特にコンセプト映写機については保有率で中学校の7倍，全回答数に対する利用率で5倍と高率なのが目立つ。コンセプト映写機は体育をはじめ実技教科を中心に，専門的な技能や内容を反復して提示し，習得させることをねらった機器なので，全科担任制の小学校での利用率が高いのはうなづける。なお，中学校のコンセプト映写機の保有率は6%強と低いが，100%利用されている点は注目したい。

問1-エ **図4** テレビ受像機の保有率と利用率



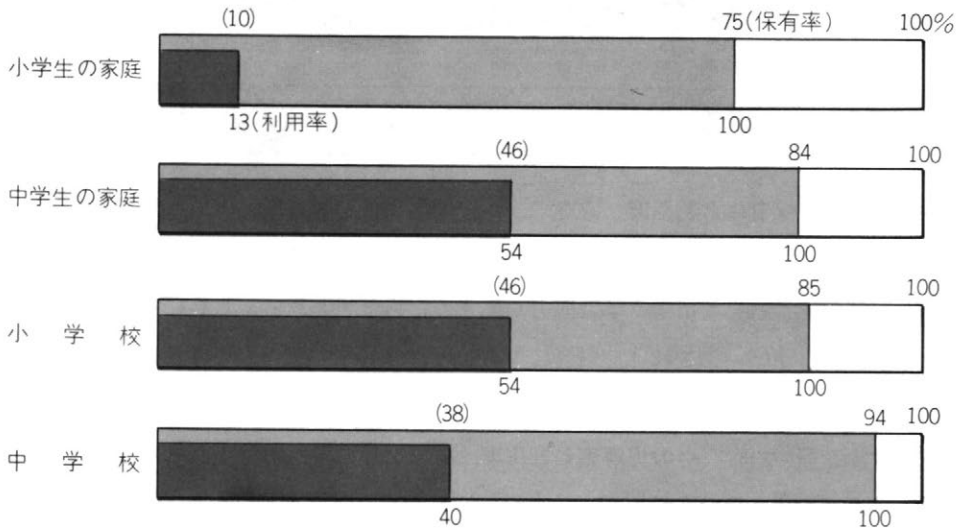
②テレビ受像機の保有率と利用率 家庭での利用率は保有率とともに小学生、中学生は、ほぼ同率である。ビデオテープレコーダーの普及が15~16%台なので、大部分は学習番組や講座を直接視聴し利用しているものと思われる。学校では、小学校が100%保有で94%強の利用に対し、中学校は保有88%弱、全回答数に対する利用率が75%と下がる。これは前述した学校種別による番組利用の難易と関係がある。

問1-オ **図5** ビデオテープレコーダーの保有率と利用率

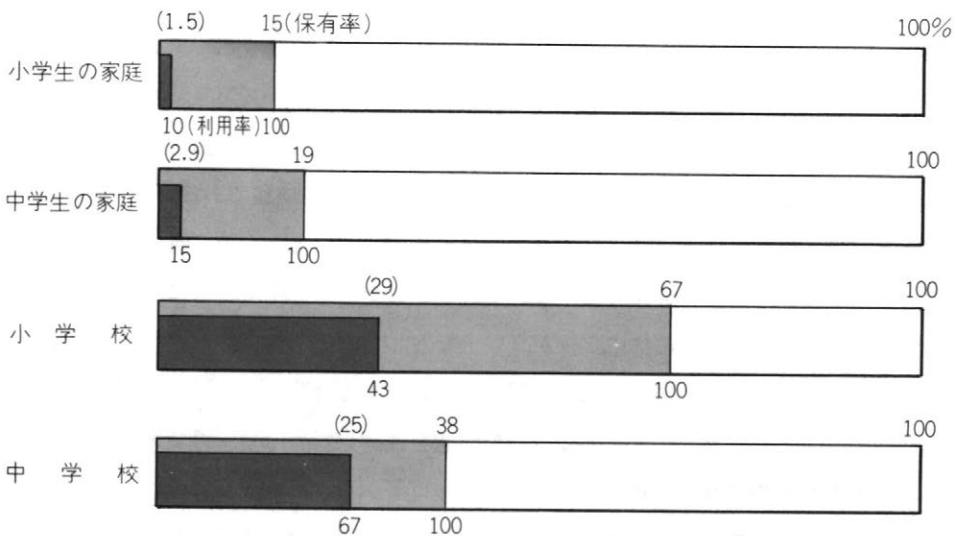


③ビデオテープレコーダーの保有率と利用率 家庭での利用率は小学生16%弱、中学生29%弱と差が見られるが、全回答数に対する利用率は、小学生3%弱、中学生4%強と、保有率がいずれも15%台と低いこともあって大きな差はない。学校では、小学校・中学校ともに保有率が同率で、直接番組を利用できる小学校でも中学校と大差ない利用率であることが注目される。自作教材の利用もあると思うが、番組の利用も必ずしも直接利用ではなく、授業進度に合わせて利用時期をずらす使い方も行われているのであろう。中学校については、テレビ受像機と保有率および利用率が一致しており、テレビ番組は録画でしか利用できない実態がうかがえる。

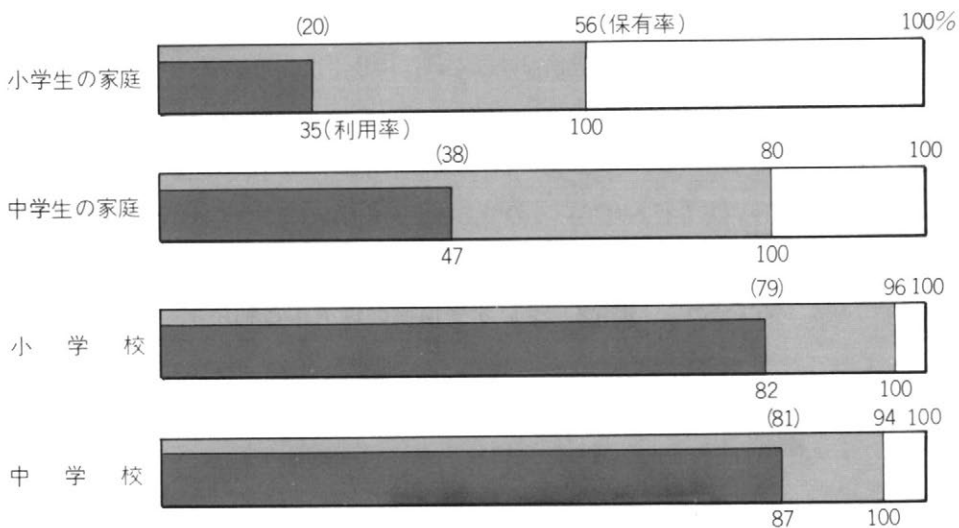
問1-カ 図6 ラジオ受信機の保有率と利用率



問1-キ 図7 テープ式録音機(オープン)の保有率と利用率



問1-ク 図8 テープ式録音機(カセット)の保有率と利用率



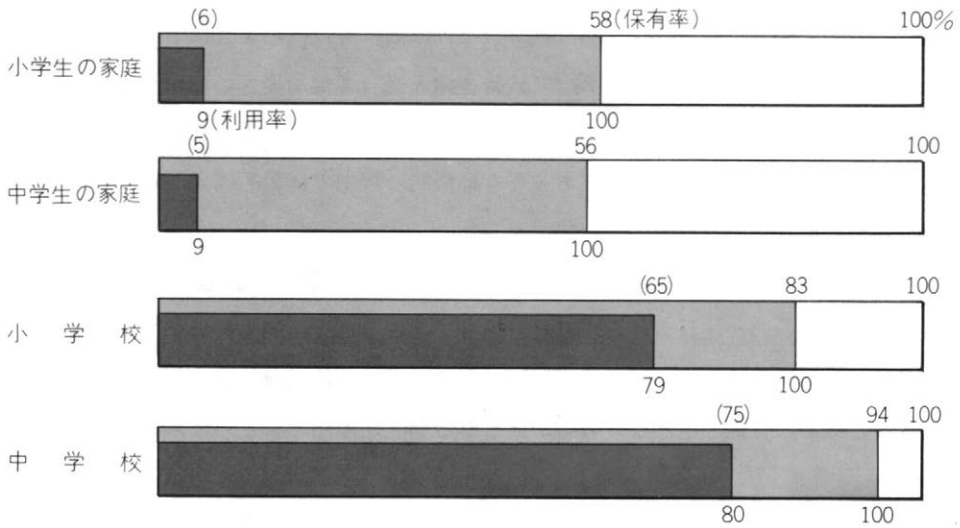
④ラジオ受信機の保有率と利用率 家庭では、中学生の方が保有率とともに利用率も高い。これは、英語をはじめとして、「中学生の勉強室」など利用できる講座番組も多く、さらに、中学生になるとラジオ番組を利用する学習能力が高まるためと思われる。これに対し、学校での利用率は中学校の方が低い。これは、録音によらなければ利用できないことその他、特に教科向けの番組が少ないことも関係していると思われる。

⑤テープ式録音機(オープン)の保有率と利用率 オープンリール機は、音楽鑑賞や校内放送用途の特殊な高級機種を除いてテープ式録音機としては旧型のものといえる。そのため、家庭・学級ともにカセット機との交代が進行している。保有率については前述したが、家庭での利用率が低いのはこのような理由による。これに対して学校の方の利用率が高いのは、録音済のテープが残っていると、音楽用などに特性を生かして活用されているなどの理由と思われる。

⑥テープ式録音機(カセット)の保有率と利用率 カセット機はオープンリール機に比べて小型軽量の上、テープの操作も容易で、性能もオープンリール機をしのぐため、急速に普及した機種である。ラジオ付きの機種が多く、ラジオ番組の録音利用にも便利である。家庭では保有率・利用率ともに中学生が高いが、これは前述のラジオ番組の利用とともに、英語を中心に市販の録音教材が揃っていることも関係している。学校の保有率は小・中学校共に高率で、保有は小学校がやや高いが、利用率は逆に中学校が高い。なお、テープ式録音機は単に教材再生だけでなく、発音・発声の練習、声楽・器楽の学習など、いわゆる「鏡(カガミ)的」利用もあり、後述する家庭用のランゲージラボラトリーは、この機能を強調したカセット機である。

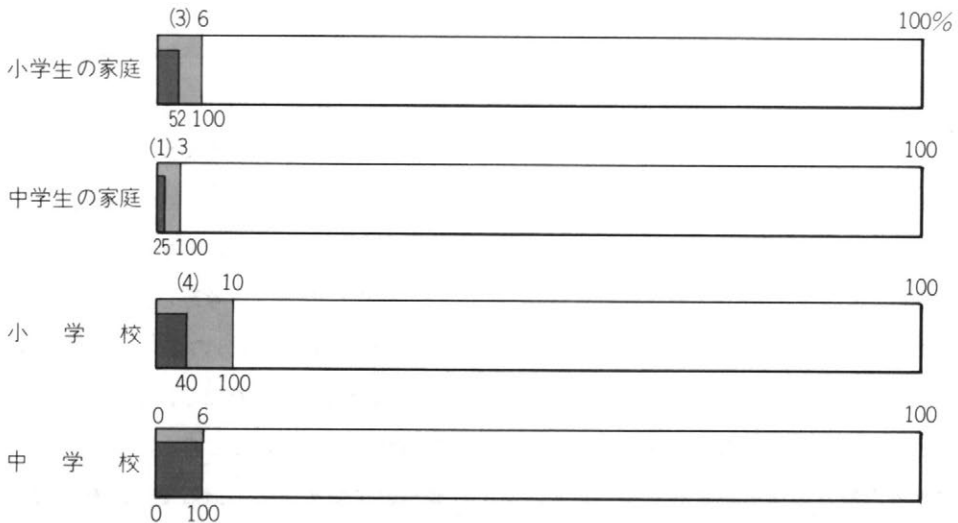
⑦レコード演奏装置の保有率と利用率 ポータブル電蓄からステレオまで含むレコード演奏ができる機器を指す。ソフトとしては、かつては国語や英語の教材が市販されたが、現在はほと

問1-ケ 図9 レコード演奏装置の保有率と利用率



んど録音(テープ)教材化され、レコード教材の大部分は音楽関係と考えてよい。家庭では利用率・保有率共に小学生・中学生で大きな差がなく、利用率は低い。学校では音楽科用に必須の教具であり、保有が100%と考えられるが、無回答の中には、音楽や体育などの利用の多い教科以外の教師が回答した場合、記入もれがあったのではないかと考えられる。

問1-コ 図10 シート式録音機の保有率と利用率

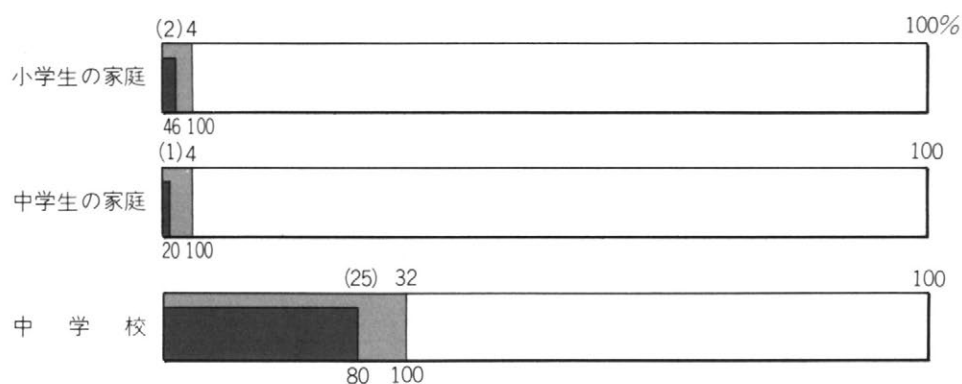


⑧シート式録音機の保有率と利用率 個別、あるいは小集団での学習機器として最も歴史が古

く、まず学校で使われ、続いて家庭用、あるいは塾用などに普及していった機器である。家庭での保有は小学生6%弱、中学生3%弱、利用は小学生52%(全回答数に対して3%)、中学生25%(同1%弱)といずれも小学生の方が高い。これは前にも述べたように市販ソフトの整備と関係していると考えられる。なお、テープ式録音機と違って他用途への転用がむずかしい機器なので、保有して利用していない場合は全くの死蔵になっていると思われる。その理由としては適当な市販ソフトがない、あるいはあっても経済的な理由で継続的購入が難しいなどがあるのではないかと推測される。

学校では、保有は小学校の方が高いが、利用率では中学校が100%と、全回答数に対する利用率も高くなっているのが注目される。家庭と違って学校では比軽の手軽にソフトの自作ができること、いったん学習プログラムを組み、ソフトを準備すれば以後は安定した利用が可能なこと、数学など機器の特性を生かせる教科があることなどが理由としてあげられる。

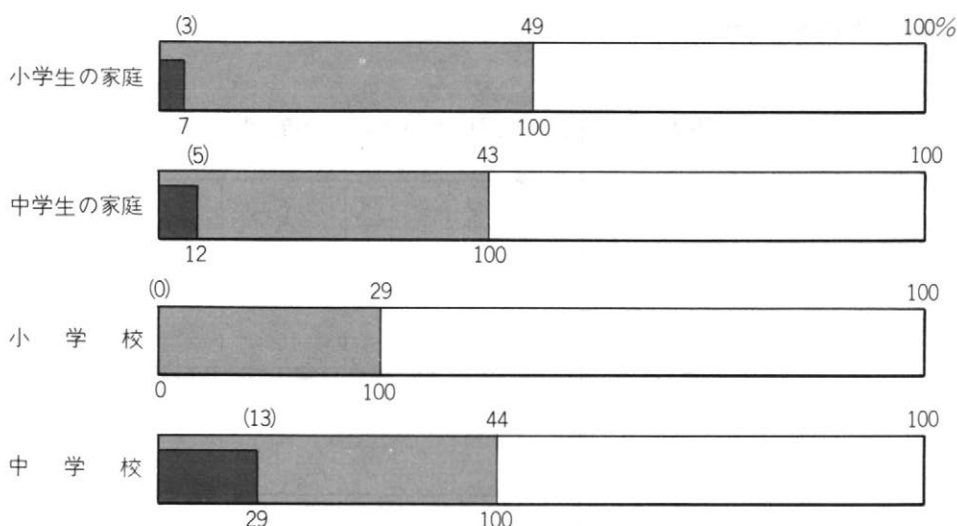
問1ーサ **図11** ランゲージ・ラボラトリーの保有率と利用率



⑨ランゲージ・ラボラトリーの保有率と利用率 家庭用のものは前述のようにテープ式録音機の応用機器と考えられる。英語学習用の機器なので、中学生の方が多く考えられるが、調査結果は小学生・中学生ともに4%弱とほぼ同率であった。大部分の中学生はこのような特殊な機種でなく、一般のテープ式録音機(カセット)を利用していると考えられる。学校では当然のことながら小学校の保有は0%であるが、中学校ではおよそ3分の1の学校が設備を持ち、その80%(全回答数に対して25%)が利用していることになる。ただし、この中には完全な施設としてでなく、持ち運び式のものなど簡易型も当然含まれていると考えられる。

⑩電卓応用機器の保有率と利用率 電子式卓上計算機およびその応用機器で、計算練習機などの低機能のものから、電子辞典類、電子翻訳機、さらにはプログラミングのできるマイクロコンピュータに類するものまで市販されているが、ほとんどは計算機と考えてよいと思う。家

問1-セ 図12 電卓応用機器の保有率と利用率



家庭での保有は小学生の方が高いが、利用率は中学生の方が全回答数に対してもやや高い。

学校では小学校の利用率の0%に注目したい。これは保有(29%弱)のほとんどが事務用に使われ、計算機能のみの機器であることを物語っている。また、基礎的な計算能力を養うために計算機は使わせない方針もうかがえる。中学校でも大半は事務用と思われるが、学習用にも使われている。これは数学以外に、理科等での実験結果の処理などにも利用されるためである。

(4) **コンピューターおよびマイクロコンピューターについて** この調査でのコンピューターとは、大型のコンピューターを用いた個別学習用の設備・機器で、ある程度多人数の児童・生徒に同時に学習させることのできるものを指す。今後の開発や利用が期待される機器であるため保有率は低く、小学校1件(2%弱)であった。なお、小学生の家庭から3件(0.4%)の保有があったが利用率が0%であるので、営業用途のものを誤記したものと思う。

マイクロコンピューターは、コンピューターを内蔵した個別学習用あるいは個人学習用の機器を指す。学校用にももちろん利用できるが、今回の調査では0%であった。家庭での保有も小学生2.5%、中学生3.6%と低率であったが、高価でしかも開発の歴史がきわめて浅いことを考えると、必ずしも低いとはいき切れない。なお、利用率が小学生40%、中学生20%と低いのは、回答の中に学習用でないもの、たとえば趣味用やコンピューターの原理を学んだり訓練したりする目的のもの、さらにゲームなどの娯楽用途のものが入っていたためと思われる。こう仮定すると中学生の保有率が高く、利用率が低いことも理解できる。

2 学習機器の購入の動機と理由

(1) 学習機器の購入の動機

問2 図13 家庭における購入の動機

	店頭の実物	カタログ	訪問販売員の勧誘	新聞の広告	現物入手	その他	無記入
小学生の家庭	20%	15	9	7	6	16	27
中学生の家庭	22%	12	9	5	5	24	23

① 店頭の実物を見て購入する家庭が一番 小学生の家庭では、どんなきっかけで学習機器を購入しているのだろうか。図13が示すように、①店頭の実物を見て購入した(20%)②カタログを見て購入した(15%)③訪問販売員に勧誘されて購入(9%)④新聞・雑誌の広告を見て購入(7%)⑤現物が手に入ったから(6%)の順になっている。

中学生の家庭でも、同じような傾向がみられ、①店頭の実物を見て購入(22%)②カタログを見て購入(12%)③新聞・雑誌などの広告を見て購入(9%)④訪問販売員に勧誘されて(5%)⑤現物が手に入ったから(5%)の順になっている。

両者を比較すると、どちらも同じような傾向が見られ、差があまりない。やはり実際に店頭の実物を見て購入している家庭が一番多い。店頭で学習機器の効用・操作・価格などを調べた上で購入したと思われる。しかし反対に、カタログや新聞・雑誌などの広告を見て購入している家庭が意外と多い。個々の機器について知っていて購入したのか、それともカタログ・広告の内容だけで購入しているのか不明であるが、家庭用電気器具・家具と同様な購入の傾向がみられる。また、訪問販売員の勧誘によって、購入することが上位にあるが、電気関係の製品について家庭の主婦は知識がうとく、販売員にいろいろ説明され、その効用などに気がひかれると購入する傾向があると思われる。

問2 図14 学校における購入の動機

小学校	カタログ 58%	研究会 19	教育図書 13	その他 10
中学校	カタログ 56%	教育図書 19	店頭の実物 6	研究会 6 その他 13

②学校における購入の動機 小学校の場合、①カタログを見て購入(58%)②研究会に出席して(19%)③教育図書などの研究物を読んで(13%)の順になっている。やはり、小学校においては、学校に送られてくるいろいろなカタログから、性能・操作・価格を検討して購入することが一番多い。あとは、研究会に出席して、現物を見たり、現物を利用している場面を見て、購入する傾向があると思われる。

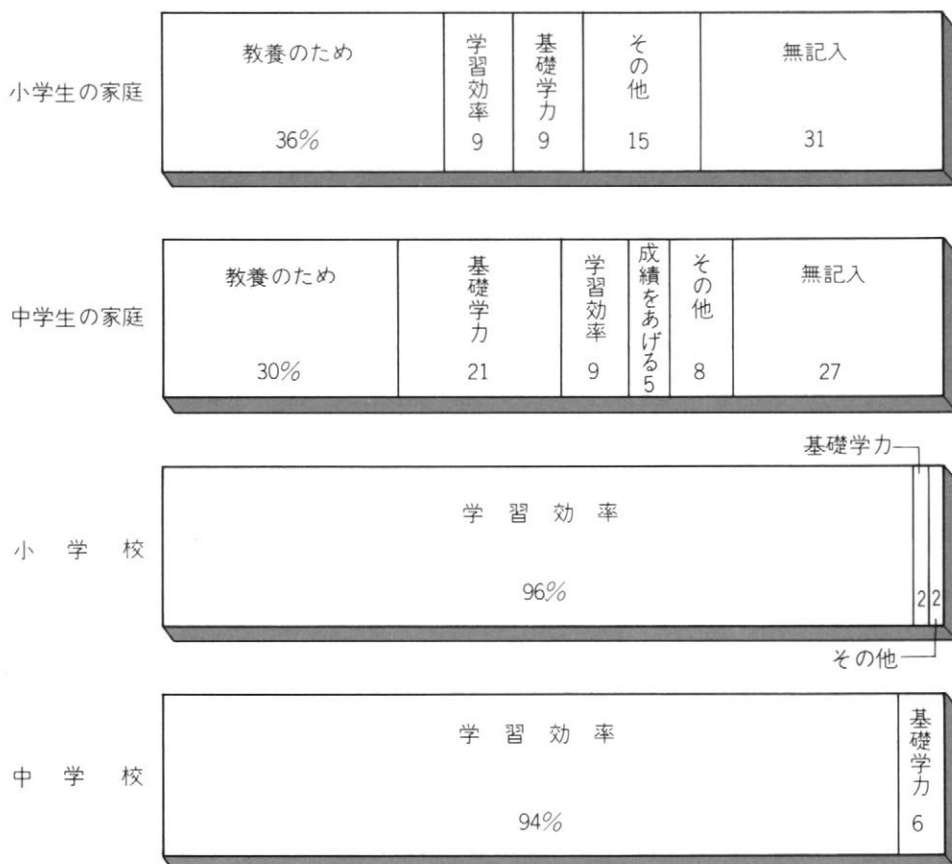
中学校の場合、①カタログを見て購入(56%)②教育図書など研究物を読んで(19%)③研究会に出席して(6%)、店頭の実物を見て購入(6%)の順になっている。「教育図書など研究物を読んで」というのは、学習機器を使用した実践授業の記録を読んで、その使い方や効果に注目して購入する気になったものと思われる。

小・中学校を比較すると、どちらも同じ傾向を示しており、カタログを見て購入するケースが、一番多く、他を圧している。

③家庭と学校の相違点 学校では、カタログとか研究会で利用の仕方を見たり、教育図書で学習機器の利用の効果を読んだり、聞いたりして購入することが多いが、家庭においては、その学習機器の効用は、実際にはわからずに、ただ単に、店頭の実物を見て、「操作しやすい」「こんな効用があるようだ」ぐらいの気持ちで購入することが多いと思われる。また、家庭では、いろいろな方法で学習機器の活用について、聞いたり見たりしても、実際の利用については、確かな自信をもたずに購入してしまう傾向がみられる。

(2) 学習機器の購入の理由

問3 図15 どんな理由で学習機器を購入しているか



①家庭における購入の理由 小学生の家庭では、①一般的な教養を身につけるため(36%)②基礎学力を身につけるため(9%)③学習効率を高めるため(9%)④学校や塾で使っているから(1.6%)⑤学習の遅れをとりもどすため(1%)の順になっている。これを見ると、小学生の家庭では、小さいうちから、社会一般の知識や常識的な知識を早く身につけさせ、広い知識をもたせようという親の考え方がにじみ出ている。また、学校の成績をより上げようとするよりも、基礎的な学力を身につけさせておけば、将来、大きくなってから、自己の力で伸びるであろうという可能性を求めて、基礎学力の向上に役だてようという傾向が見られる。

中学生の家庭では、①一般的な教養を身につけるため(30%)②基礎学力を身につけるため(21%)③学習効率を高めるため(9%)④学校の成績をよくするため(5%)の順になっている。中学生の家庭においても、小学生の家庭と同じ傾向が見られ、社会一般の知識及び常識を身に

つけさせたいと願っている。

両者を比較すると、およそ同じ傾向が見られ、「一般的な教養を身につけるため」が購入の動機の最大の原因となっている。しかし、中学生の家庭では、高校受験をひかえているため、その目的で購入したと思われる傾向も見られる。それは、「基礎学力を身につけさせる」が小学生の家庭よりも多く、やはり、高校進学を考えて、基礎学力を養っておかねばならないと思っているからであろう。また、第4位に「成績を上げるため」とあることも、高校進学をひかえての家庭での対策と推測される。

②**学校における購入の動機** 図15に示されたように、小学校・中学校ともに同じ傾向で、ほとんど学習効率を高めるために、学習機器を購入している。これは、学習効率を高めることによって、指導内容の理解を図ると共に、学力の向上をねらっているものである。また、基礎学力を高めるためには、小学校(2%)中学校(6%)とも、学習機器の利用は効果があると考えている。

③**家庭と学校との相違点** 学校と家庭の大きな違いは、家庭においては、一般的な教養を身につけさせるねらいで購入しているのに、学校では、学習に対して意欲づけをしたり、興味・関心をもたせたりして学習効率を上げようとしている点である。

つまり、家庭では、個人で使うため、すぐに成果が出るであろうという期待をもって活用していると思われる。学校においては、集団の意欲を高める活用であるから、基礎学力の向上だけでなく各人が、この使用によって、自ら調べ、理解していこうという学習の動機づけにつながり、学習がスムーズに展開することを期待している。

また、小・中学生の家庭では、「学校や塾で使用しているから」という理由で購入している家庭もあるが、これも学校で使っている授業などを参観して刺激され、学習機器を使えば、多少とも学習の効率があがり、基礎学力も身につくだろうと期待して購入したものと思われる。

前述のように、家庭における学習機器の購入の動機は、小・中学生ともに、店頭の実物とカタログによるものが35%を占めている。また、訪問販売員の勧誘、新聞の広告によるものが、約15%あり、その理由も教養を高めたり、基礎学力を身につけたいというのがそれぞれ50%近くあり、共通の目的から購入していることがわかる。

また、小・中学校では、カタログ中心の購入が半数を占めているが、「研究会に出席して」というのが約20%で、学習機器の教育的効果を認めた上での購入といえる。購入の理由が家庭と異なり、「学習効率を高めるため」が95%前後と圧倒的に多く、学習機器の活用による授業の効率化という点に、強い関心を示していることがわかる。学習機器の購入の動機と理由を、家庭と学校で比較してみると、家庭では、さまざまな理由からの購入に対し、学校では、学習効率を高めるといふ明確な目的を持っている点が、大きな違いであるといえる。

3 学習機器の利用状況

(1) 学習機器の利用の程度

問 4 **図16** 家庭における学習機器の利用

	全く利用していない	1週に1～2回利用	1か月に1～2回	1年に数回	ほとんど毎日	その他	無回答
小学生の家庭における利用程度	22%	21	14	12	5	2	24
中学生の家庭における利用程度	11%	24	15	6	20	2	22

①家庭における機器の利用度は高くなっている 図16のグラフに表れているように、家庭における学習機器の利用は、かなり普及していることがわかる。何らかの形で利用している家庭が、小学生の場合は52%、中学生の場合は65%に達している。この中で、1週に1～2回利用するというものが最も多いが、利用の頻度という点からみれば、日常の学習の中で大きな比重を占めているとは、まだいえない段階であろう。

②中学生の家庭ほど利用の程度が高い 小学生の家庭の場合は、「全く利用していない」というものも結構多いが、中学生の家庭になると、その割合は減り、全体的に利用の程度が高まっている。とくに、「ほとんど毎日利用する」という家庭が、20%に達している点が注目される。

あとの(3)の項で述べることから関連するが、中学生になると外国語の学習が始まるため、語学の練習に機器を利用する家庭が多くなると考えられる。また、中学生になれば、機器を自分で操作することに関心が強まることも、利用度の高まりと関連していると予想される。また、その他の自由記述から考えられることは、純粋に学習ということではなく、趣味に近い利用のしかたも中学生には多いように思われる。

③学校における利用の程度はきわめて高い 図17の2つのグラフを見ると、家庭にくらべて、学校における学習機器の利用の程度は、きわめて高いことがわかる。「ほとんど毎日利用する」というのが、小学校で25%、中学校では56%に達する。逆に、「全く利用していない」というのは、小・中学校とも0%である。

問 4 図17 学校における学習機器の利用

小学校における 利用程度	1週に1~2回 利用 48%	1か月 に1~2回 12	1年に 数回 13	ほとんど毎日 25	無回答 2
	中学校における 利用程度	25%	19	56	

④中学校にくらべて小学校の利用度は低い 全体的にみれば機器の普及率は大きいといえるが、使用の頻度からみれば、利用度が高いとは必ずしもいえない。とくに小学校では、1週に1~2回というのが48%をしめている。中学校の場合も、教科によってかなり差があることが予想される。普及の大きさからみて、学習機器が授業に果たしている役割は大きいと考えられるが、一方で、手軽に機器を利用できないでいる状況をうかがうこともできる。この隘路を追求する必要があろう。

(2) 学習機器を利用する際の所要時間

問 5 図18 家庭における学習機器の利用時間

小学生の家庭の 利用時間	15分 以内 9%	15~30分 25	30~45分 15	45~ 60分 7	1時間以上 2	その他	無回答 37
	中学生の家庭の 利用時間	8%	30	18	11	4	3

①家庭での機器の利用は1回に1時間以内がふつう 図18のグラフでみるように、学習機器の1回ごとの利用時間は、15~30分というのが最も多い。1時間以内のものは、小学生では56%、中学生では67%である。無回答を除いて考えれば、ほとんど1時間以内と考えてよいであろう。この傾向は、小学生・中学生とも大体同じである。

家庭における学習の方法は、やはり、教科書や参考書によるものが主流だと考えられるが、その補助的な形で機器が利用されるようになってきていると推定される。しかし、「その他」の自由記述をみると、長時間使用している例は見あたらず、逆に、「利用していない」というものが多く、「学習機器としては使っていない」、「子どものために利用しない」などの消極的な傾向を予想させるものが目立っている。

問 5 図19 学校における学習機器の利用時間

小学校における 利用時間	15分以内 29%	15～30分 59	30～45分 6	45～60分 2	その他 4
中学校における 利用時間	25%	63	6		無回答 6

②学校での1回の利用時間は30分以内が多い 図19のグラフで見ると、学校の授業で学習機器を利用する場合、1回の所要時間は、ほとんどが30分以内で、とくに15分から30分というのが多い。この点は、時間のばらつきが多い家庭の場合と大いに異っている。30分以内という傾向は、小・中学校でもほとんど差がない。

小学校のグラフにある「その他」では、「状況による」という記述がみられるが、これは、お話をテープで聴くとか、映画をみるとかの特別な場合であろう。

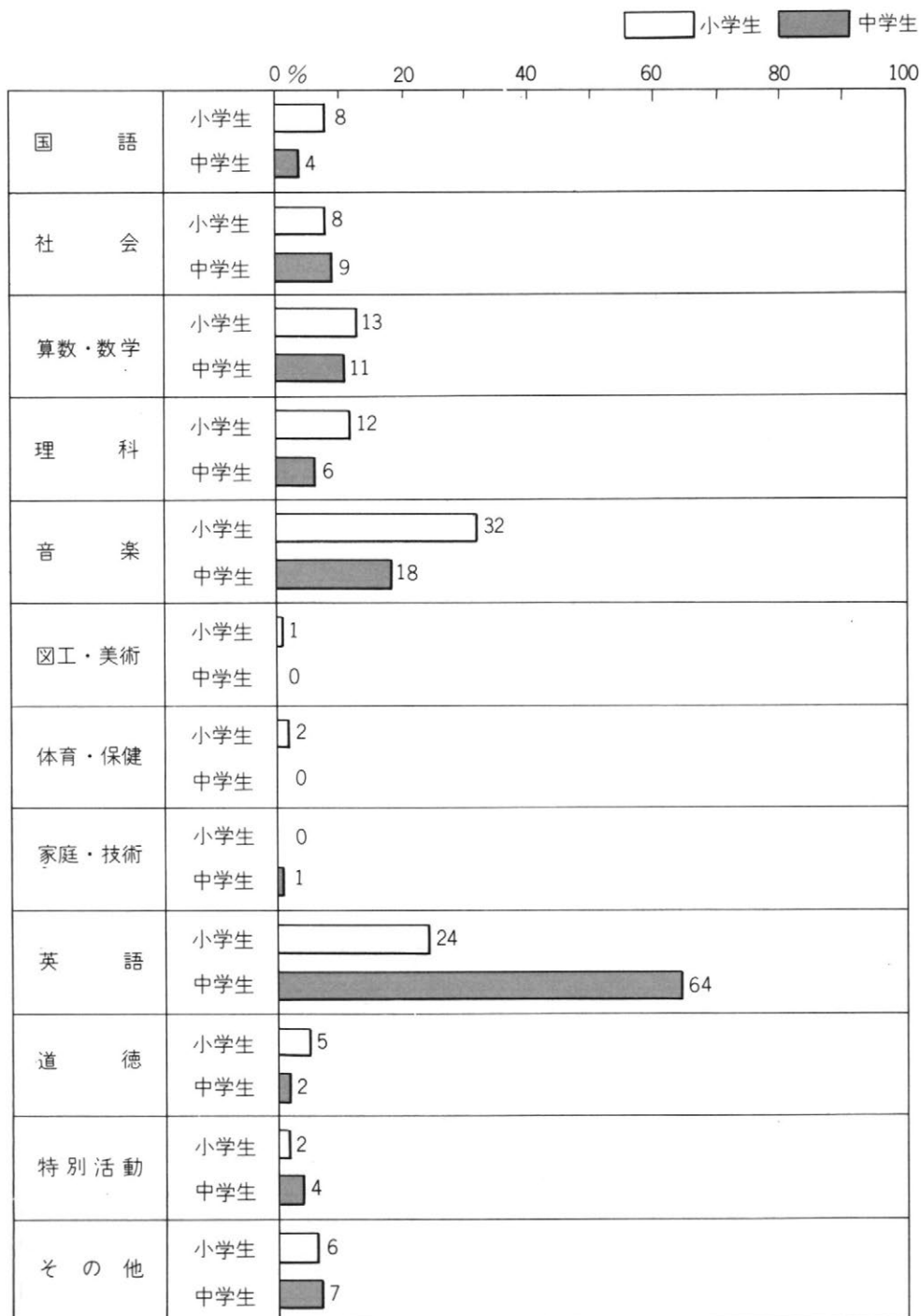
③学校における利用時間は、授業形態と関連する 授業で学習機器を利用する場合、ア. 課題や問題を把握する イ. 一般的な情報を提供する(知識の獲得) ウ. ドリルをする エ. ア～ウを総合させた形で情報を提供する、以上の4つがその内容になることが多い。

したがって、ソフトウェアもその目的にそって作られているものが多く、時間も20分前後にまとめられているものがほとんどである。テレビやテープの音である情報を提供し、それをもとに、話し合いをしたり、知識をまとめたりする学習形態がごく一般的であろう。上のグラフに表れた結果は、そうした授業形態に由来すると考えられる。

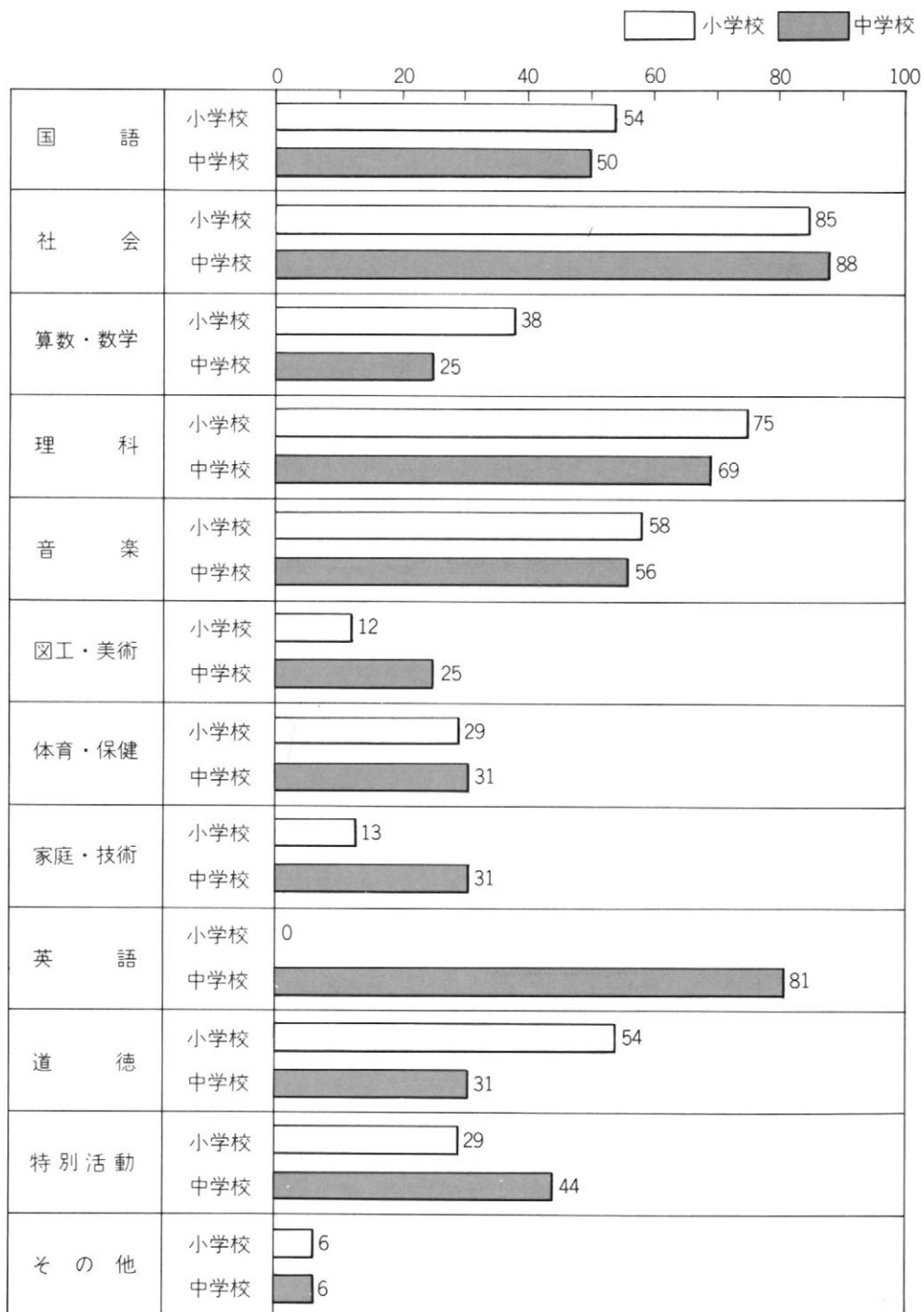
また、授業では、OHP・スライド・テレビなどの映像を使用することが多く、それは長時間にわたると、子どもの視力に悪影響を与えることがあり、一般に長時間利用はさける傾向がある。その点、家庭では音によるドリルが主体であると推定される。

(3) 学習機器を利用している教科・領域

問 6 図20 家庭において学習機器を利用する教科・領域



問 6 図21 学校において学習機器を利用する教科・領域



①**家庭では英語と音楽が断然多い** 家庭で学習機器を利用する場合、どんな教科や領域が対象になっているだろうか。図20のグラフでみるように、英語と音楽が断然、他を抜いて多い。中でも、英語については、中学生の家庭の64%もが利用している。

英語につぐのは音楽で、そのあとは、算数・数学、社会、理科、国語と続く。図工・美術・体育・保健、家庭・技術については、ほとんど利用されていない。このことは、家庭で利用される学習機器は、音声を中心とするものであって、映像を用いるものがあまり普及していないことと関係がありそうである。映像を用いる機器や教材が、手軽に利用できるようなれば、社会、理科、図工・美術、家庭・技術の教科や、教養の領域にも、もっと対象が広がっていくのではないかと考えられる。

②**小学生の家庭でも英語の機器をかなり利用している** 小学生と中学生を比較すると、英語を除けば、概して小学生の方がどの教科でも利用度が高い。とくに、音楽では、その傾向が顕著である。英語は、中学生になって学習するものであるから、中学生の利用が多いのは当然であるが、小学生でも24%と高い率になっているのが注目される。語学の早期教育の指向がかなり進んできている結果であると推定される。

③**機器利用の対象領域は多様化している** 図20の「その他」の項目の自由記述を見ると、内容が多様である。「学習用に使用していない」という答も多いが、使用している場合、「一般教養」、「自然科学」、「お話」、「娯楽」、「声の録音」、「学校を主にしたドラマ」、「テレビの主題歌」などがある。必ずしも、学校の授業と直接に結びつかないが、広い意味での学習に関連して、機器が利用されていることがうかがえる。

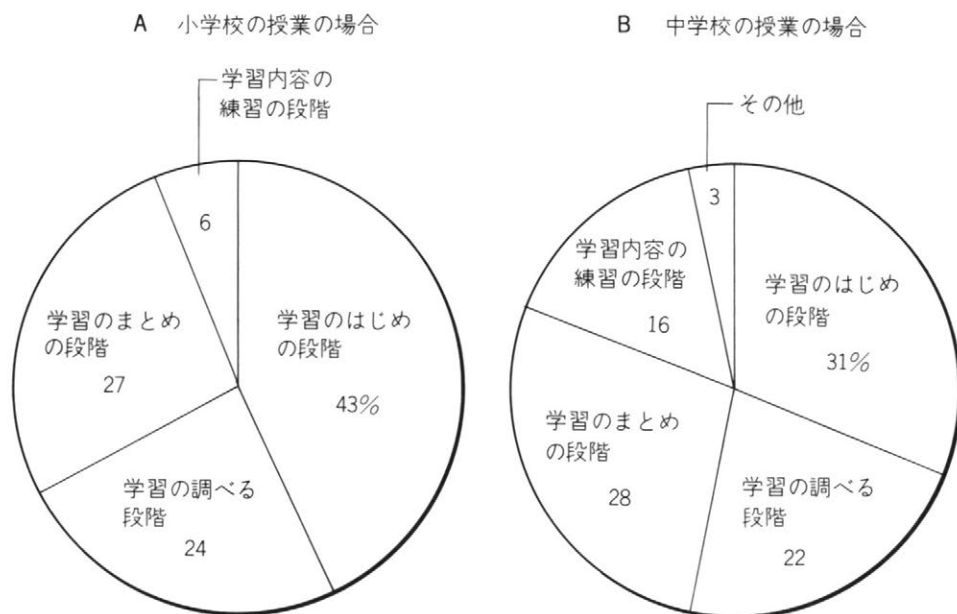
④**学校では、どの教科・領域でもかなり利用されている** 図21のグラフに表れているように、学校では、小学校の英語を除き、どの教科・領域でも、機器の利用度は高い。教科では、とくに、社会科、中学校の英語が高く、次いで理科、音楽、国語、算数・数学、体育・保健、家庭・技術、図工・美術の順になる。

教科以外の道徳、特活でも、かなり利用されていることがわかる。学校の場合は、OHPやスライド、ビデオなど映像を用いた情報提供が、比較的やりやすいのに対し、家庭ではそれができにくいということから、学校と家庭の利用対象・利用度の大きな差が生まれているのであろう。家庭では、音声中心、ドリル中心になりやすいのが現状である。

⑤**小・中学校で利用のしかたの差はあまりない** 図21から判断する限り、機器の利用の対象は、英語を除いて、小・中学校の差はあまり認められない。比較的差が大きいのは、図工・美術と家庭・技術である。これは、中学校になると美術の鑑賞や複雑な工作のために、いろいろな映像が使用されるようになることと関係しているのであろう。道徳では、小学校での利用度が高いが、教材開発のあり方の差異によるものであろう。

(4) 学習機器を利用する授業の段階

問 7 図22 学習機器を利用する授業の段階



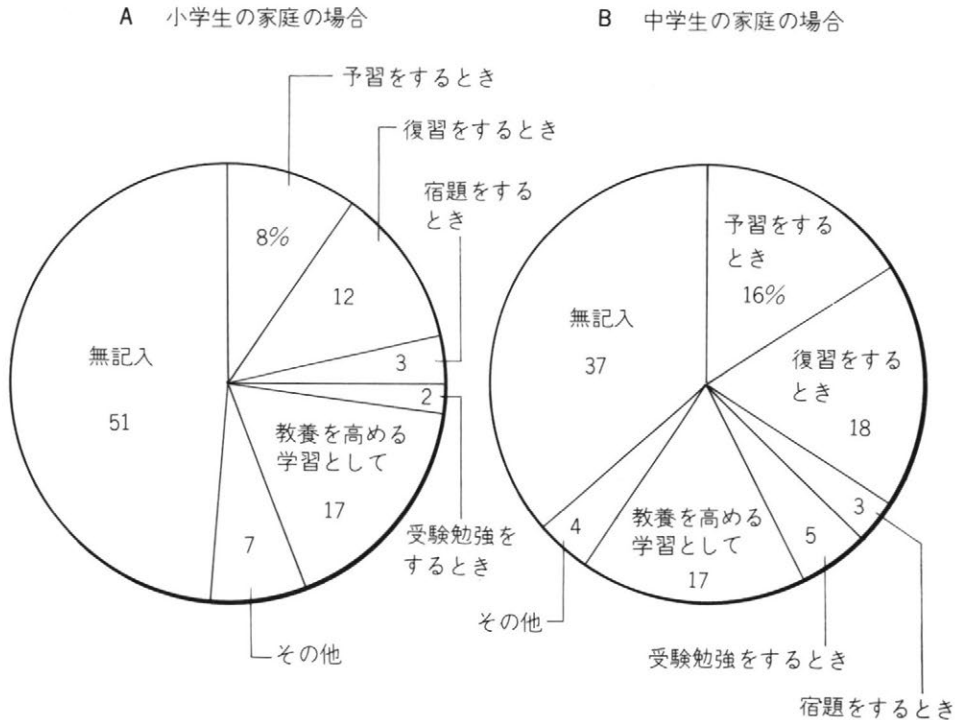
①「学習のはじめの段階」に学習機器を利用することが多い 図22のA・Bのグラフに表れているように、小・中学校とも、学習機器は、学習のはじめの段階に利用することが最も多い。これは、導入などの段階で、映像を見せ、あるいは音声を聴かせるなどして、学習の課題を把握させることが多いのではないかと推定される。

②中学校では、「学習内容の練習の段階」で利用することも多い A、Bのグラフを比較してわかるように、「学習内容の練習の段階」は、小学校よりも、はるかに中学校の方が利用が多い。これは、中学校になると、外国語のドリルなどに機器を使用することが多くなるからではないかと考えられる。

③「学習結果のテストの段階」では、ほとんど使用されていない 導入、調べる、まとめる、以上の3つの段階では、小・中学校とも同じような傾向で機器が利用されているが、学習結果を評価する段階では、ほとんど利用されていない。これは、評価の方法とかわってくる問題であるが、評価の面を工夫したソフトウェアが開発されていないことが大きい理由であろう。

(5) 家庭で学習機器を利用するときの場面

問 8 図23 家庭における学習機器利用の場面



①復習をするときに機器を利用することが多い 図23のA, Bのグラフで見ると、小・中学生とも、勉強に機器を用いるときは、復習の場合が多いようである。一方、中学生になると、予習にもかなり利用することが多くなるようである。これらは、ソフトウェアにどんな内容のものがあるかということと大いに関係しており、この傾向を考慮して、教材の開発を試みるのが重要であろう。

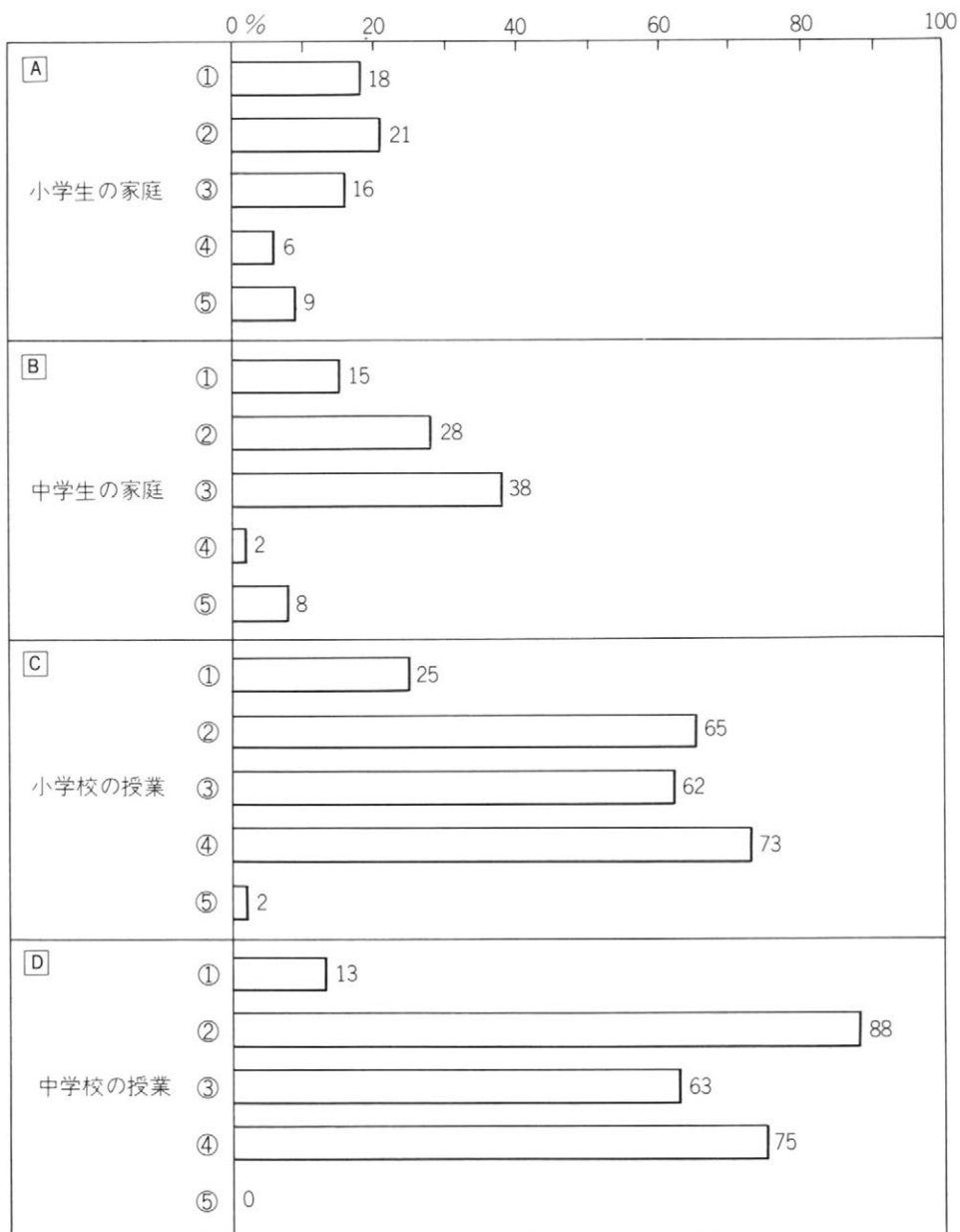
②家庭では、「教養」のために機器を利用することが多い 図23の2つのグラフでは、「教養を高める学習として」という項目が、小・中学校とも17%をしめている。この点は、学校の利用と大いに異なる点であり、そうした家庭の要望に答えるソフトウェアの製作が望まれるであろう。中学生になると、受験勉強のために利用するということが多くなると予想されるが、上のグラフで見ると、その傾向はとくに強いとは思えない。

「その他」の自由記述を見ると、英会話、音楽鑑賞、趣味や娯楽といった内容が目立ち、学校の授業とは離れた場面での機器の利用も進んでいくと考えられる。

(6) 家庭・学校で学習機器を利用するときの教材

問9 図24 教材(ソフトウェア)の種類

- | | |
|--------------------|--------|
| ① 学習機器に付属している専用の教材 | ④ 自作教材 |
| ② 一般に市販されている教材 | ⑤ その他 |
| ③ ラジオ・テレビの番組のテキスト | |



①家庭では既成の教材を利用することが多い 図24の[A], [B]のグラフに表れているように、家庭で学習機器を利用する場合、小・中学生とも、機器専用の教材、市販の教材、テキストなど、既成の教材が断然多く使われている。とくに、中学生になると、市販の教材がかなり多く使われており、また、英語講座などのためと推定されるが、ラジオ・テレビの番組のテキストもよく利用されているようである。

この傾向は、自作教材を作成することの困難な家庭の状況を考えれば、当然の結果だと思われるが、それだけに、家庭学習用のすぐれたソフトウェアの開発が望まれる。一方、小学校などでは、わずかながら、自作教材がみられるのは注目にあたいしよう。子どもの個性にあった教材を各家庭で自作する試みは、機器の進歩にともなって、次第に増えていくものと推定して誤りはないであろう。

②ソフトウェアは多様化している 小・中学生の家庭の回答のうち、「その他」の項目での自由記述の内容を見ると、教材のとりあげ方が多様化していることがわかる。例えば、教科書、塾で出しているテープ、英会話のテープ、一流演奏家の音楽、カラー図鑑、学校の付属教材など様々なものがある。これらは概して、学校の授業と関連しているようであり、幅広く、教養を高めるためのものは少ないように思われる。

③学校の授業では、既成のものとならんで自作教材が多い 図24の[C], [D]のグラフで見ると、学校の授業では、市販の教材、ラジオ・テレビのテキストとならび、教師の自作教材が非常に多い。家庭とくらべて、学校では、はるかに多くの教材が使われていることと、教師の自作教材の多いことが大きな特徴といえよう。

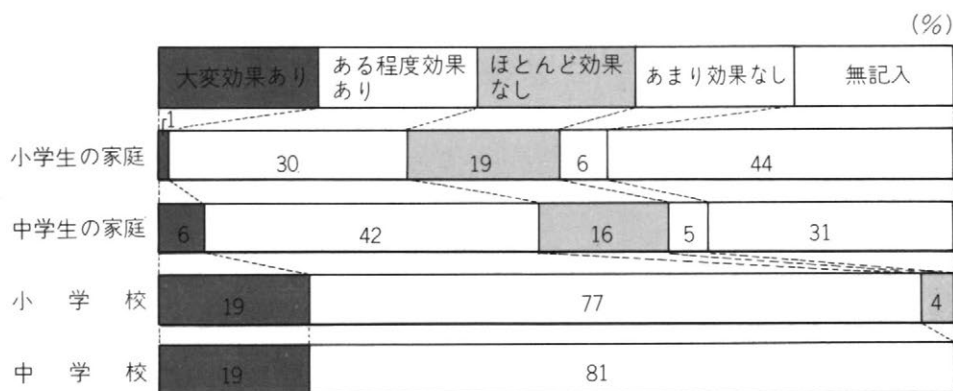
自作教材は、どのような内容のものか、図24から判断はできないが、最も手軽に作成されているのは、OHPのトランスペアレンシーであろう。また、スライドや、録音テープなどもかなり作られていると推定される。児童・生徒の条件、地域の条件にあったソフトウェアが作成されることは好ましいことで、どんな内容のものが多く作られているのか、自作のための悪条件は何かなど明らかにして、より良い方向をさぐっていくことが重要なことで、今後考えなければならぬ。

④市販の教材の利用度が高まっている 図24の家庭・学校の両者を通して見て、市販の教材の利用度がかかなり高いことが注目される。これは、使用されている学習機器の種類とも関連するが、市販のソフトウェアの内容が、家庭や学校の要求に答えられるだけの価値を高めてきていることを示す。したがって、今後、それらへの需要が増していくことが当然予想されるが、問題は、それらの教材の学習上の価値、価格の適正さなどであり、その点についての吟味が重要になってくるであろう。

4 学習機器の利用による効果

(1) 学習面での効果と理由

問10 図25 学習機器の利用による学習面での効果



①ある程度の効果をもたらす学習機器 学習機器を利用すると学習の効果があるのだろうか。全体の傾向としていえることは、家庭でも学校でもその効果を認めていることである。特に、中学生の機器利用による学習効果が高くなっている。また、小・中学校とも家庭における効果よりも、学校における効果が非常に高い。

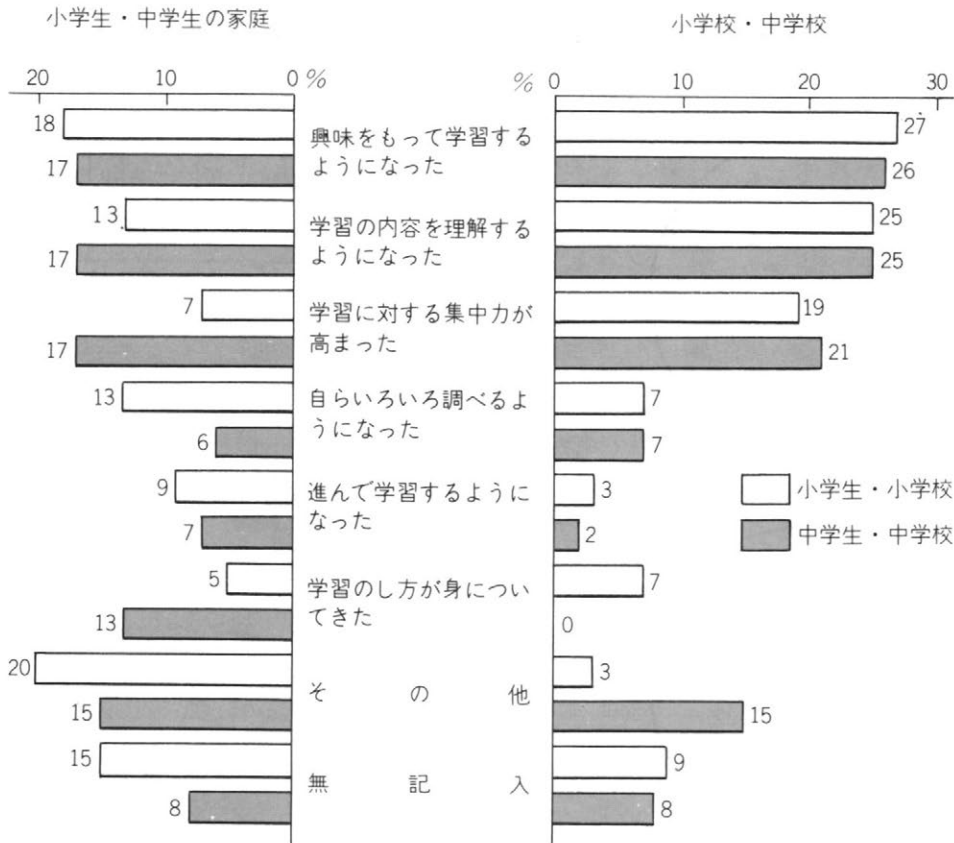
小学校の家庭においては、「大変効果がある」というのは1%にすぎない。「あまり効果がない」と「ほとんど効果なし」は合わせると約25%となる。しかし、30%は家庭においても「ある程度効果がある」と認め、「効果がない」を上回っている。中学校の家庭においても同じような傾向が見られるが、「大変効果がある」が6%と、小学生に比べるとその利用効果は高い。

学校において、小・中学校とも「大変効果がある」が共に19%で、「ある程度効果がある」というのは約80%となっており、ほとんどが、学習機器の利用を効果的であると判断している。ここでも小学生に比べると中学生の方がその効果は高くなっている。

②家庭と学校では利用の効果に大きな開き 家庭と学校の機器の利用には大きな開きがある。学校の方が効果が高いのは、学習機器が授業を効率的にするばかりでなく、子どもにとっては興味、関心を高め、意欲的に追究するために有益な働きをするためと思われる。

家庭において効果の割合が低くなっているのは、無答が小学生44%、中学生31%と非常に多くなっているためである。これは、どの程度効果があるものかを、父母が明確にとらえられない難しさにも原因があると思われるので、学校との単純な比較ができないことも確かである。

問10-2 図26 学習機器を利用して効果があつた理由



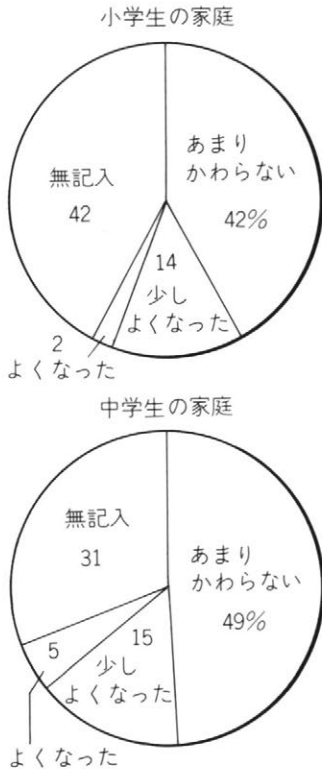
③学習内容の理解、学習能力の向上 学習機器を利用して、効果が上がったのはどうしてだろうか。それを確かめようとした問題である。小学校の家庭では、学習への興味、内容の理解、調べる意欲などが主な理由となっている。中学校の家庭では、さらに、学習への集中力、学習方法の習得に効果を発揮しているといえよう。

④学校での利用は一層効果的 小・中学校とも、学習内容に対する理解を促す役割のあることを示している。なかでも、教材提示等における効果的な手段として役立っているものと考えられる。学習に対する集中力が高まるということが、小・中学校において20%を示しているが、このことは、学習の効果を一層高めていると考えられる。

⑤学習への興味、関心の喚起、学習意欲の持続 全体的な傾向としていえることは、学習機器が子どもの学習に対する興味・関心を喚起したり、学習意欲をわかせる、持続するために効果的な働きをしているということである。ただ、家庭と違って学校においては、進んで学習する、学習のし方を身につけるといふことに機器が有効であるとは考えられていない。

(2) 学習機器の利用による性格、行動面での効果と理由

問11 図27 性格、行動面への効果



問11-2 図28 性格、行動面がよくなった理由



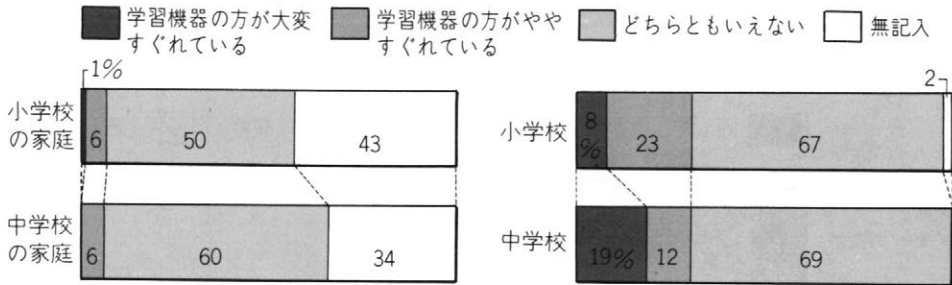
①**機器の持つ機能の幅広さ** 家庭において学習機器を利用して、子どもの性格や行動面に効果があるだろうか。図27の通り、小・中学生とも「あまり変わらない」が40%以上を占めているが、「少しよかった」「よかった」が小学生では16%、中学生で20%を占め、学習機器の利用により、性格・行動面に効果が表れている点に注目したい。

②**機器で培われる基本的な生活習慣や社会性** 機器の利用によって性格、行動面がよくなるのはどんなところだろうか。図28の示すように、小・中学生の家庭においては、自ら工夫する、人に頼らないなどのよい面が表れ、落ちついて性格も明るくなったという結果になっている。

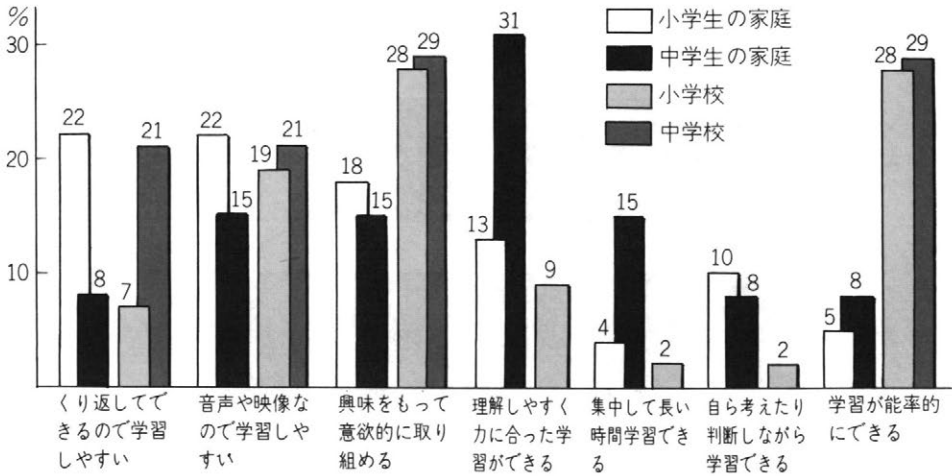
小・中学生を比較してみると、小学生の方が中学生より家族との対話が増える原因となっている。中学生は几帳面さや規則正しさなどが小学生を上回っている。いずれにしても、自主的精神や人間的な明るさ、落ちつき等による社会性の涵養、および基本的な生活習慣が身につくことなど、性格、行動面に効果をおよぼす機器の働きの一面が表れているといえよう。

(3) 学習機器の利用と印刷教材との比較

問12 図29 印刷教材と学習機器の教材との比較



問12-2 図30 学習機器がすぐれている理由



①目的によって利用の仕方に長短 学習機器の利用と他教材とはどちらがすぐれているだろうか。全体的に、「どちらともいえない」が多い。目的によって利用の長短があると考えられる。

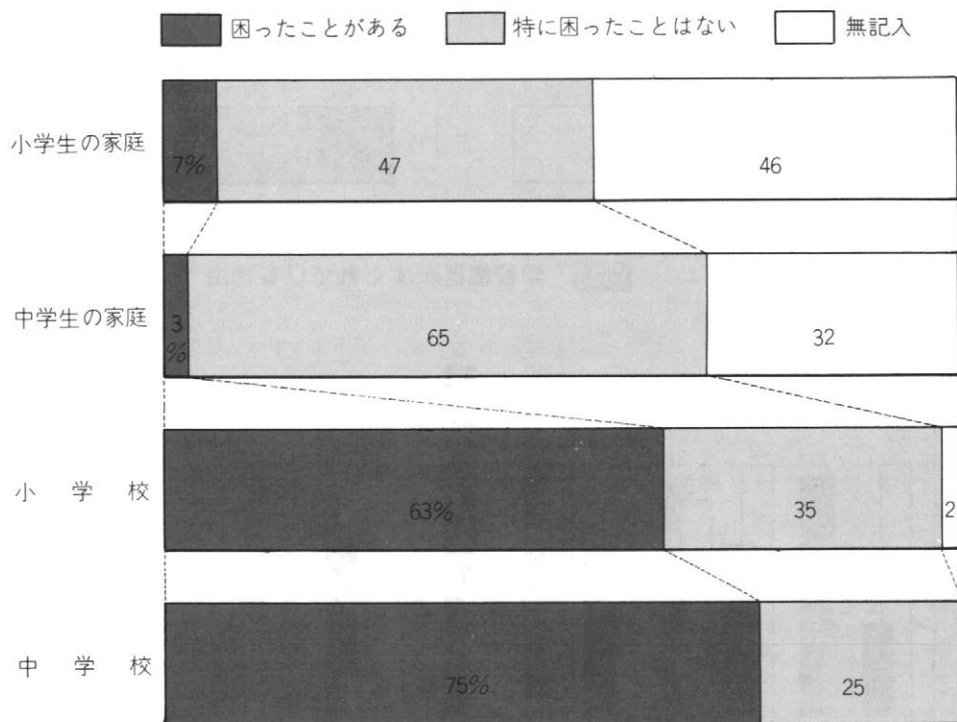
②学習のしやすさや反復練習に魅力 機器がすぐれている理由は何だろうか。図30が示すように、小学生の家庭では、繰り返し練習、学習のしやすさ、興味・関心の喚起、自分の能力に合った学習ができることが理由になっている。中学生では集中的な学習がこれに加わる。小・中学校では、これらのほか、能率的な学習も理由にあげられている。

③問題解決学習の促進 反復性、音声、映像など機器の機能からくる効率性に関連する理由が多いのは当然の結果であろう。特に、集中力、判断力、興味、意欲など子どもの態度に関する評価が高い。全般に、自ら問題解決していく学習を促進することが理由としてあげられている。

5 学習機器の利用上の問題点

(1) 学習機器を利用する上での問題点と理由

問13 図31 学習機器の利用に当たって困ったこと

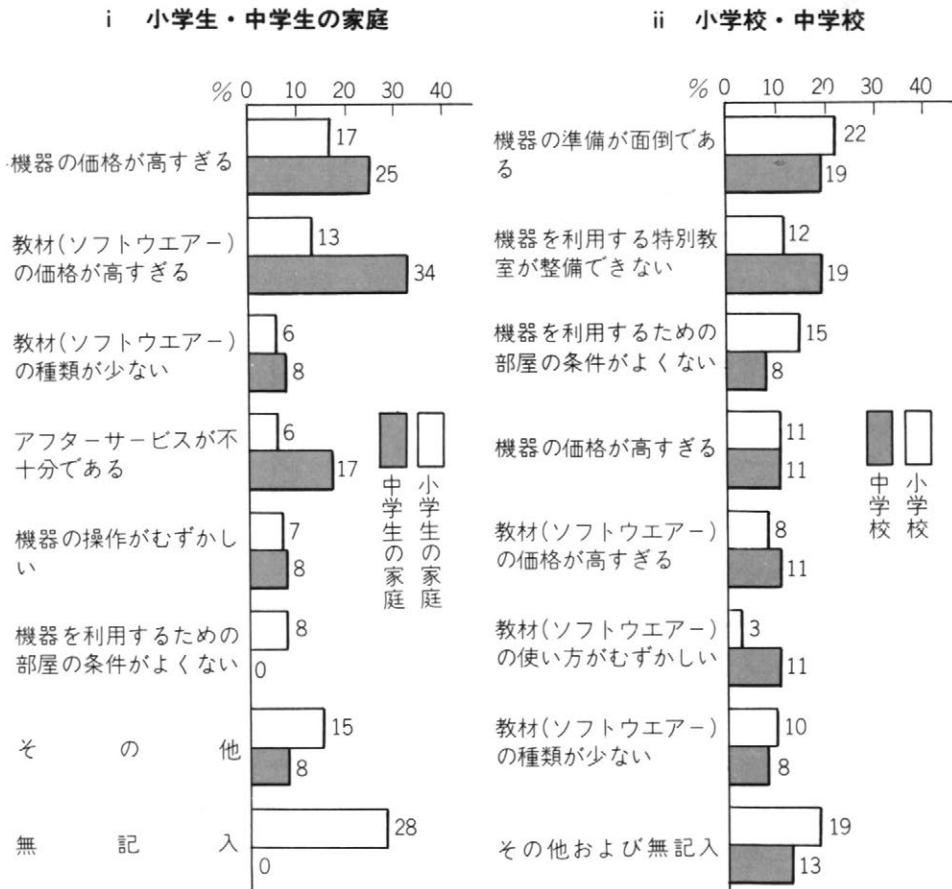


①**特に困ってはいない家庭** 学習機器を利用する上での問題点はないのだろうか。小・中学生の家庭においては、図31が示すように、「特に困ったことはない」が非常に多い。特に、中学生は高い率になっている。無記入が多いのは、問題点を明確にできるほど利用しなかったであろう。

②**困ったことがある学校** 小・中学校における結果は、困ったことがあるが約70%前後を示している。特に、中学校においてその割合は高くなっている。学校において無記入が少ないのは、利用上における問題点の多さのため関心が高かったためと思われる。

③**家庭と学校では逆の結果** ここで興味のあることは、家庭と学校の機器利用のとらえ方の相違である。家庭では、「困ったことはない」が多いのに、学校では「困ったことがある」が多くなっている。これは、組織体としての学校において、学習機器の利用上の諸問題が山積していることを示しているものと考えられる。

問13-2 図32 学習機器を利用して困った理由



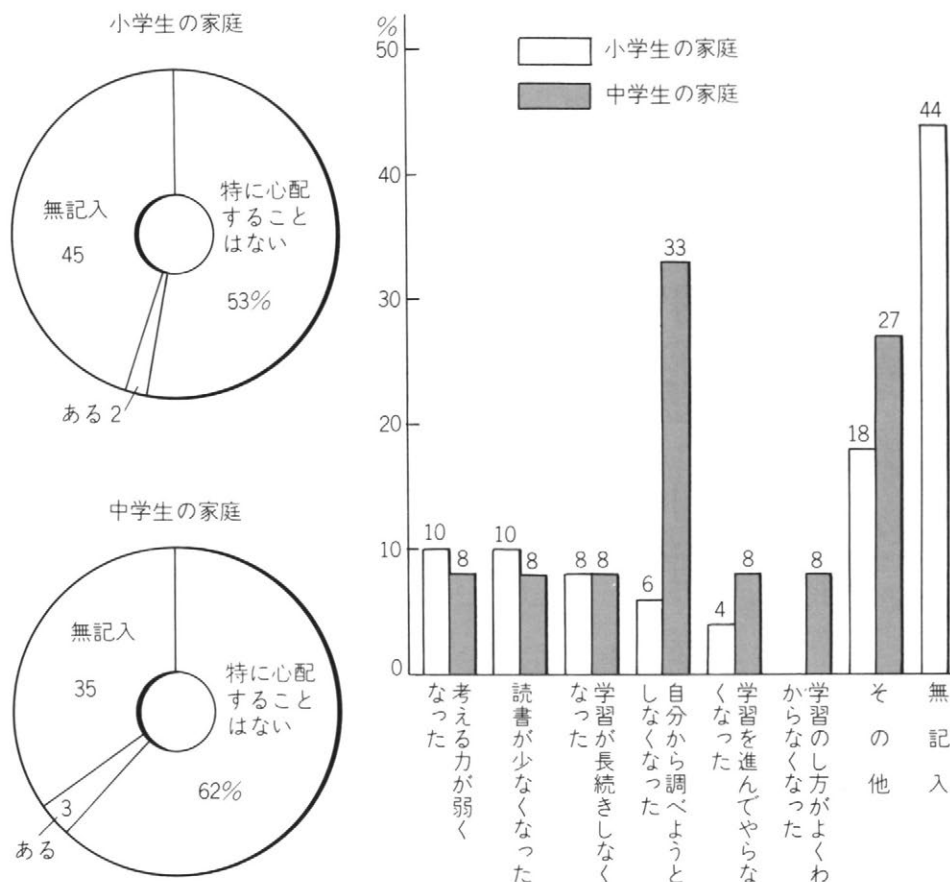
①**機器や教材の価格の高さに悩み** 家庭で学習機器を利用して困った理由としてどんなことがあるだろうか。図32-iが示すように、小学生の家庭では機器やソフトウェアの価格が高いという経済的な面、利用するための施設の面まで理由としてあげている。中学生の家庭では、ソフト利用の機会も多くなるためか、その価格に関心が集まっている。機器の価格の高さを困ったこととして考えているのは小学生と同様である。

②**意外に多い準備が面倒** 小学校では、機器の準備、施設整備、機器の購入、ソフトウェアの開発などが困った理由となっている。中学校も同様な傾向であるが、教材の使い方、価格などが小学校以上に問題である。最も重要な問題は、機器の準備が面倒という割合の高さである。

③**ソフトウェアへの関心** 家庭と学校の比較でみると、機器に関する直接的な設備、価格、操作が問題となるのは予想されるところである。意外なのはソフトウェアに関する問題点が多いことである。市販のソフトウェアに頼るために種類、使い方などが問題になっている。

(2) 学習機器の利用による学習態度上の問題点と理由

問14 図33 機器利用による心配 問14-2 図34 心配があると答えた理由



①半数以上が心配していない機器の利用 機器を利用することが学習態度の面で問題とならないだろうか。結果は図33が示すように半数以上が問題点を感じていない。

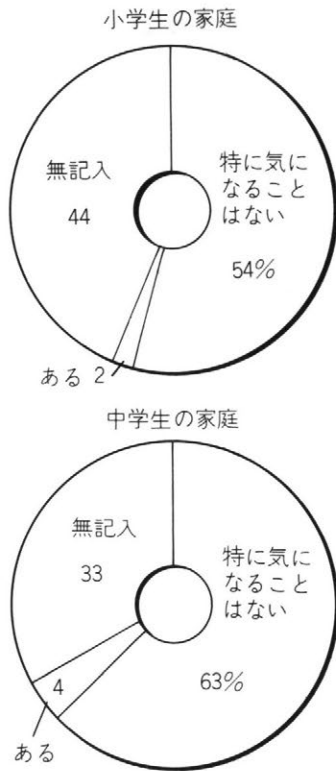
②知識の獲得と態度の面で心配 図34を見ると、小学生においては考える力、読書量などに対する心配で、知識の獲得が受身的であることを示している。長続きや自ら調べることの欠如の問題は態度面での主体的な取り組みの姿、つまり、やりぬこうとする姿のなさを心配している。

中学生においては、根気よく自ら考えを深めようとする態度に欠けていくことへの心配が見られる。機器が問題解決の道を開いてくれるために、安直に利用することからくる問題点ともいえよう。学習の仕方の不明確さ、読書離れなどは、小・中学校共に心配な点として出されている。やはり、消極的な受容のしかたが促進されることへの心配と考えられる。

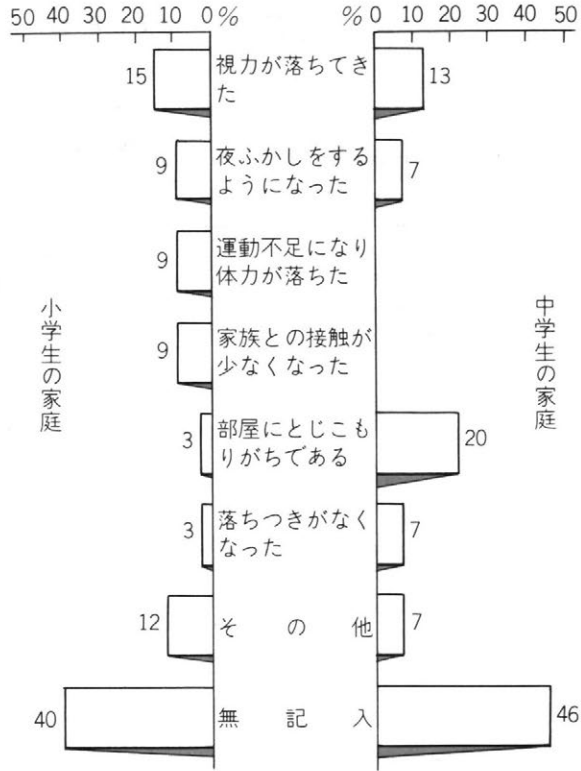
(3) 学習機器の利用による性格、行動面の問題点と理由

問15

図35 性格、行動上の問題点



問15-2 図36 性格、行動上に問題がある理由



①性格や行動上の問題はないが半数以上 図35のように小学生の家庭では、気になることはない54%、ある2%である。中学生の家庭では、気になることはない63%、ある4%である。小・中とも半数余りが機器による性格や行動上の問題は特にないという結果である。

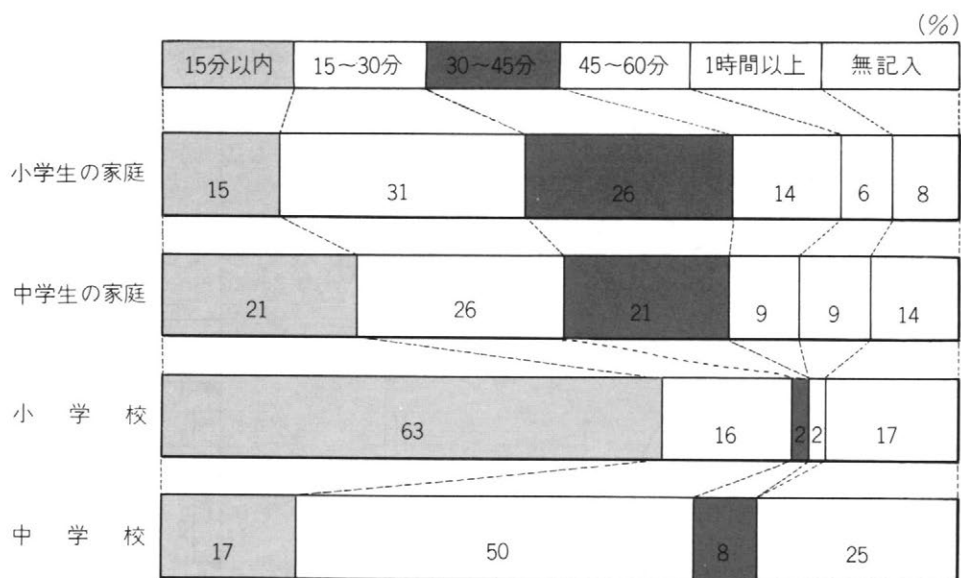
②機器が割込んで交流が後退 性格、行動上問題があるのはどうしてだろうか。図36が示すように、小学生では、視力の弱まり、夜ふかし、体力の減退、家族との交流不足などが問題点としてあげられている。中学生では、部屋にとじこもりがち、落ちつきのなさ、視力の弱まり、夜ふかしなどが主な理由となっている。中学生になると、自分の生活の域に機器が入り込むことによって、交流を阻害する原因となっているようである。なかでも、落ちつきがなくなったという情緒面の問題点は、小学生の傾向では見られない中学生の家庭の特徴である。

小・中の家庭の共通点に、身体面のことと、生活面のことが問題点としてあげられているが、特に、中学生の場合、情緒面での問題が心配されているといえよう。

6 テレビの利用による効果と問題点

(1) 1日平均の利用時間

問16-ア 図37 学習にテレビを1日どのくらい利用するか



①家庭におけるテレビ利用の時間

小学生の場合 テレビを学習に利用している時間は、15～30分(31%)、30～45分(26%)、15分以内(15%)、45～60分(14%)の順となっている。また、30分以内と60分以内でみると、ほぼ同じ割合を示していることは、後の利用する番組と対比してみる必要がある。

中学生の場合 利用時間は、15～30分(26%)、15分以内および30～45分(21%)、45～60分(9%)の順であり、45分以内(68%)では、小学生の場合とほぼ同じ割合である。

また、15分以内、15～30分、30～45分毎の割合がほぼ同じであることから、選択視聴がなされていると考えられる。

②学校におけるテレビ利用の時間 小学校、中学校とも30分以内が、それぞれ79%、67%と半数以上を示していることは、NHK学校放送の時間枠と関連づけてとらえることができる。

③家庭と学校における利用時間の相違点 テレビを学習に利用する時間は、当然のことながら利用する場である学校と家庭の違いや放送番組の時間枠の相違によることをはっきりと示している。

(2) 利用している教科

問16-イ 図38 利用している教科 ベスト5

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
小学生の 家庭	理科 (35%)	社会 (24%)	音楽 (11%)	国語 (10%)	道徳 (6%)
中学生の 家庭	社会 (30%)	英語 (21%)	理科 (18%)	音楽 (15%)	体育 (6%)
小学校	理科 (29%)	社会 (27%)	道徳 (26%)	音楽 (8%)	国語 (67%)
中学校	社会 (35%)	理科 (35%)	英語 (13%)	技術・家庭 (9%)	道徳 (3%) 保健体育(3%)

①理科・社会が上位を占める テレビは、どのような教科に利用されているだろうか。図38が示すように、小学生の家庭、小学校、中学校では、理科・社会が第1位、第2位にあげられ中学生の家庭においても第1位、第3位に理科、社会が位置する。また、中学校で初めて学習する英語が、家庭や学校においても第2位、第3位を占めている。さらに特徴的なこととしては、保健体育、技術家庭に利用されていることである。

②小学生の家庭と小学校 小学生の家庭では、理科に関連したものとして、自然科学、自然観察、動物番組、地球科学といったものも利用されている。学校では、学校放送として送られてくる番組を主としている。ただし、上位5位までは、順序は違っても教科は全く同じである。

③中学生の家庭と中学校 家庭と学校で利用されている教科は、ほぼ同じである。家庭で利用しているものとして、音楽、特別活動が特徴的である。この特別活動については、具体的に示されていないが、クラブ活動に関連したものと考えられる。

④家庭と学校との相違 小・中学生では、情操を高める音楽が、11%、15%を占めているのに対し、中学校では、音楽の利用がなくなっている点が、大きな相違といえる。

(3) 利用している番組

問16ーウ 図39 利用している番組 ベスト5

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
小学生の 家庭	NHK 教育テレビ	ウルトラアイ	クイズ 面白ゼミナル	小学理科教室	野生の王国
中学生の 家庭	ウルトラアイ	ニュース	クイズ 面白ゼミナル	歴史への 招待	英会話
小学校	理科教室	みんな なかよし (道徳)	大きくなる子 (道徳)	ワン・ツウ・ドン 明るい仲間	うちの人・ 学校の人
中学校	NHK教育テレビ NHK学校放送テレビ		NHK NHKの教育番組	みどりの地球 理科教室	

①家庭で利用されている番組—ウルトラアイが一番

小学生の家庭 図39に示した以外に特徴的なものをあげると、歴史への招待、日本むかし話、ニュース報道関係、ドキュメンタリー、地球に生きる、自然のアルバムなどがある。

全体的にバラエティーに富んでいるのが特徴である。

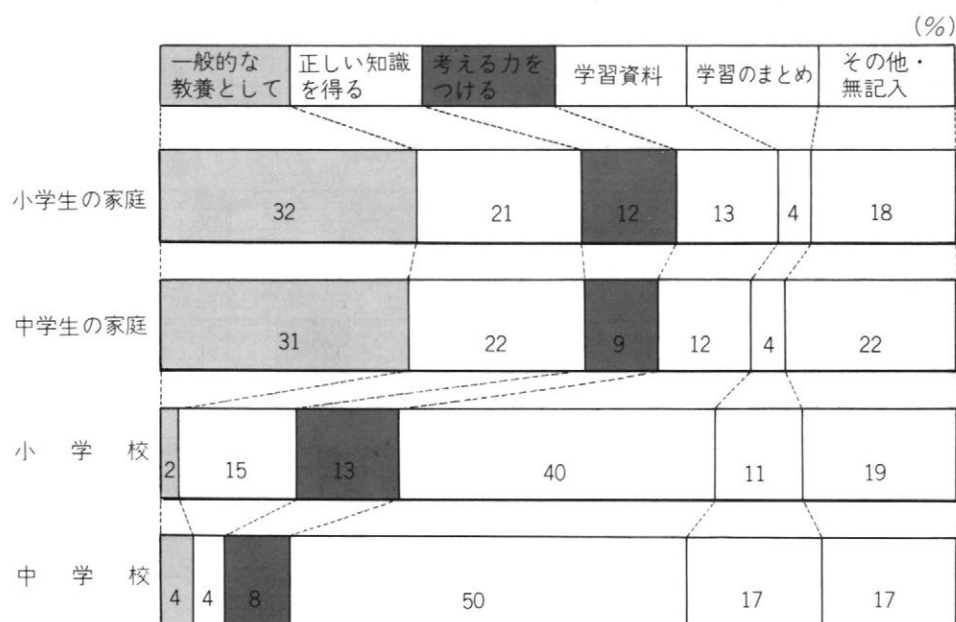
中学生の家庭 ニュース、報道関係のものが多くなっている。基礎英語、中学生日記、スポーツ番組などがあげられているのも特徴の一つである。

②**学校で利用されている番組—学校放送番組が主体** 小学校、中学校とも、学校放送番組を教科・領域に応じて数多く利用している。中学校での「みどりの地球」は、教科にとらわれない総合的なもので「ゆとりの時間」の活用であろう。

③**学校と家庭で利用される番組の相違** 学校では、視聴する場が教室ということから、学校放送が主体となるが、家庭では、家族と視聴するため多様である。また、同時視聴が主で録画利用は少ない。

(4) 利用のしかた

問16-エ 図40 テレビを利用する目的は



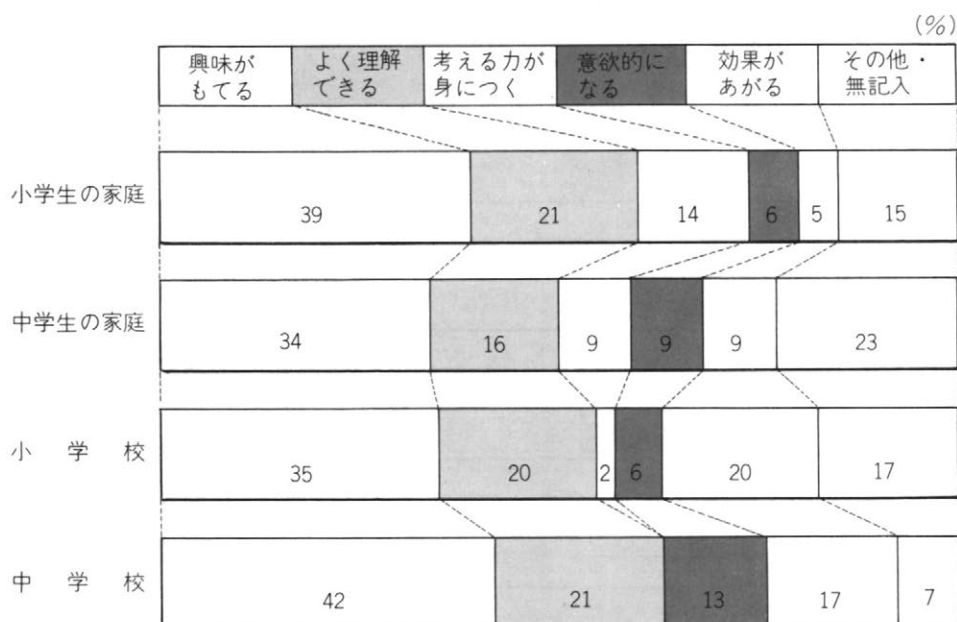
①家庭では、一般教養として利用 小学生、中学生の家庭とも、テレビの利用のしかたとしては、一般的な教養を得るものが30%、正しい知識を得るための20%台を示している。この二つの利用のしかたが、大部分を占めるのが、家庭での大きな特徴である。その他の項で、娯楽のためであったが、従来から言われている傾向である。また、学習に興味をもたすためという考え方も少数ではあったが、これから生かし方を考える必要があろう。

②学校では、学習資料として利用 学校で、テレビをどのように利用しているかをみると、小学校、中学校とも、学習資料とするものが40~50%で、大部分を占める。さらに、学習のまとめとしても10%~20%弱を示す。これは、学習のねらい等から学習資料の一つとして取り上げられるので当然のことと考えられる。また、学習の導入段階における動機づけとして利用するという意見もあった。

③小学校と中学校との利用のしかたの相違 「正しい知識を得るため」「考える力をつけるため」という目的は、学校、家庭いずれにおいても、中学校のほうが低くなっている。これは、子どもの発達段階に応じたものであろう。また、学校での利用で「一般的な教養を得る」「学習のまとめ」という目的は、中学校のほうが高くなっている。

(5) 利用しての効果

問16-オ 図41 テレビを学習に利用しての効果



①興味・理解に効果を表すテレビ利用 「テレビを利用して、どのような効果があるだろうか」という問いに対して、「学習に興味をもてる」が、小学生の家庭(39%)、中学生の家庭(34%)、小学校(35%)、中学校(42%)と一番にあげられている。次に「よく理解できる」が、16~21%で続いている。

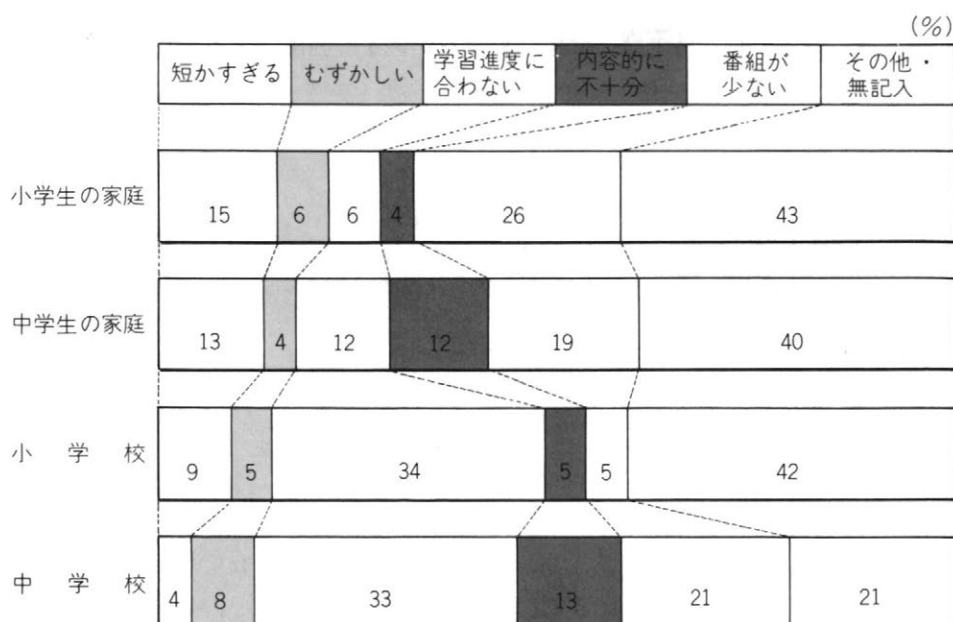
これに対して「考える力が身につく」という回答は、小学生の家庭で14%で、9%(中学生の家庭)、2%(小学校)、0%(中学校)の順になっている。これは、テレビでは、解答まで示されることが多いため、考える力を身につけたり、伸ばしたりすることはできないと考えた結果であろう。中学校の0%が、それを表しているといえよう。

②学校と家庭では利用しての効果が相違 テレビを利用しての効果について、家庭では、「考える力が身につく」「意欲的に」「効果があがる」という順に対して、学校では、「効果があがる」「意欲的に」「考える力が身につく」という順である。この点については、学校と家庭では、全く逆の効果をあげている。

家庭における「考える力が身につく」の受けとめ方は、視聴番組(ウルトラアイなど)と関連している。学校での「効果」は、学校でできないことを見せられるという意見に象徴される。

(6) 利用しての問題点

問16ーカ 図42 テレビ利用上の問題点



①家庭で利用したい番組が少ない 小学生の家庭(26%)、中学生の家庭(19%)と、利用できる番組の少ないことを、問題点の第一にあげている。小学生の家庭で、その他の理由としてあげていたものに、「時間帯が悪い」「夜は、あまり子どもの教育番組がない」などがある。

また、「短かすぎる」というのは、30分程度では(図37 利用している時間)ということであろう。中学生の家庭になると、内容的なものも考えて、問題にしている。さらに、「学習進度に合わない」(12%)のように、積極的な利用を考慮した上での問題を指摘している。

②学校では、学習進度に合わない悩み 小学校・中学校とも、「学習進度に合わない」ことを問題点にあげている。これは、学校放送番組(図39 利用している番組)が、週単位に展開されるため、番組の進度が早いことを意味していると受けとめられる。

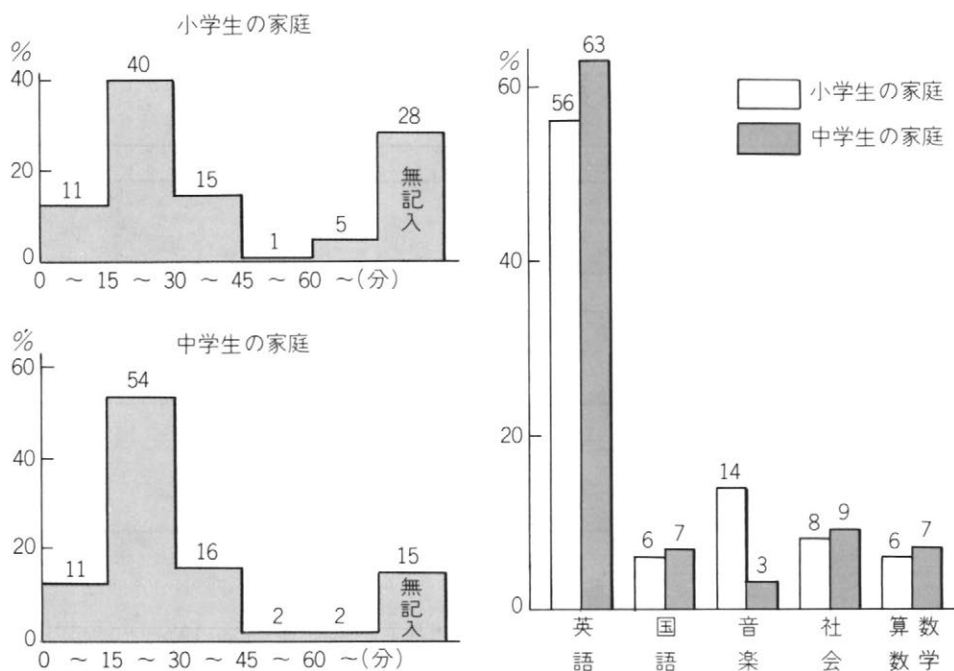
また、中学校では、番組(図39参照)が限られることから、内容面、番組数についての問題が生じている。

さらに、小学校のその他に出た意見として、「時間割にあわない」、中学校でも「授業時間とのずれ」に示されるように、放送の同時利用の現状からくる問題も大きいであろう。学校、家庭とも、テレビを学習に積極的に取り入れる上で放送時間が問題となっている。

7 ラジオの利用による効果と問題点

(1) ラジオの利用されている時間と教科

問17-ア・イ **図43** 家庭におけるラジオの利用時間と利用教科



①家庭における利用時間と教科

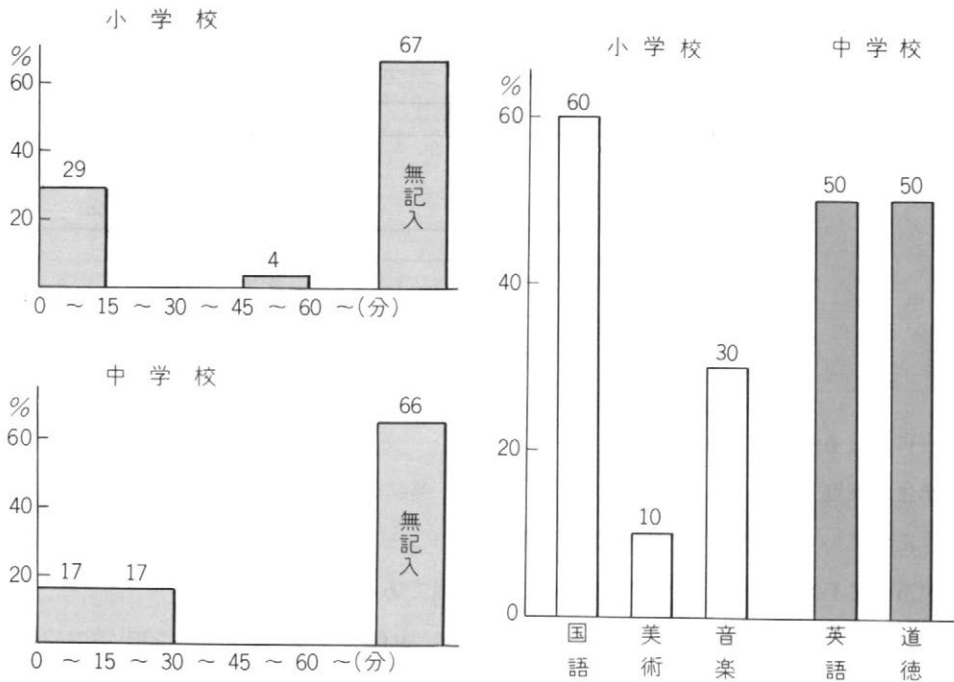
小学生の家庭 1日の平均利用時間は、①15～30分(40%)②30～45分(15%)③15分以内(11%)の順になっている。思っていた以上に、ラジオが利用されている。教科別にみると、**英語(55.8%)が最も多い**。ついで、音楽(13.7%)社会(7.8%)算数(5.8%)国語(5.8%)の順になる。

これは、最近の世相を反映して、小さいうちに英語を学ばせ覚えやすいと考え、塾でやらせたり、ラジオで聴取したりしているものと思われる。また、映像がなくても効果のあがる音楽関係のものを聴くことが多い。

中学生の家庭 ラジオ利用時間は、①15～30分(54%)②30～45分(16%)③15分以内(11%)の順になっていて、小学生の家庭と全く同じ傾向を示している。15分～45分の間でみると、中学生は70%おり、小学生の55%を上まわり、**小学生より長時間、利用されている**。

中学生は、どんな教科を主に聴いているかをみると、図43のように①英語(63.2%)②社会(8.8%)③数学(7.3%)国語(7.3%)理科(7.3%)の順になる。やはり、小学生同様、英語が圧倒的に多い。英語は、高校進学にも関係あるし、耳で聴いて、言葉に慣れる必要もあるからであろう。また、成長するにつれて、外国への留学や旅行など、国際人として、必要不可欠のものとして重視していることを反映していると思われる。

問17-ア・イ 図44 学校におけるラジオの利用時間と利用教科



②学校における利用時間と教科

小学校では、①15分以内(29%)②45~60分(4%)の順となっている。無回答が多いのははっきりした傾向は出しにくいですが、ラジオ番組に合わせると、15分以内が多いと思われる。どんな教科に利用しているかは、①国語(60%)②音楽(30%)の2教科に偏っている。

中学校では、①15以内(17%)、15~30分(17%)となっており、15分物か30分物を利用している。教科では、①英語(50%)、道徳(50%)に限られている。回答数が少ないので正確ではない。

③家庭と学校の相違点

ラジオ利用時間は、学校より家庭の方が長い。それは、いろいろな教科に関連して利用するからで、学校では、英語(中学校)・国語・音楽(小学校)に偏って利用されている。

(2) ラジオ利用番組

問17ーウ 図45 どんな番組を利用しているか

	基礎英語	続基礎英語	ソロバン教室	ニュース	NHK第2	その他
小学生の家庭	43%	7	7	5	5	33
中学生の家庭	41%	22	中学生の勉強室 14	NHK 8	その他 15	
小学校	ラジオ図書館 38%	その他 62				
中学校	続基礎英語 50%	中学生の勉強室 50				

①家庭における利用ラジオ番組

小学生の家庭 利用教科の項で説明したように、英語講座が43%を占めており、他の番組より抜きん出ている。次いで、ソロバン教室(7%)、ニュース(5%)の順になっている。おおむね映像があってもなくても、それほど関係のない番組である。

中学生の家庭 英語講座が62.6%を占めており、道徳的な面を含んだ、②中学生の勉強室(13.7%)③NHK(7.8%)の順になっている。NHKは、くわしく記述していないので、不明確であるが、おそらくニュース関係のものと思われる。

上記のように、小・中学生の家庭では同じ傾向がみられるが、小学生の家庭では、ソロバン塾と関連して、「ソロバン教室」がよく利用されるのであろう。これも世相の一端を反映していると思われる。

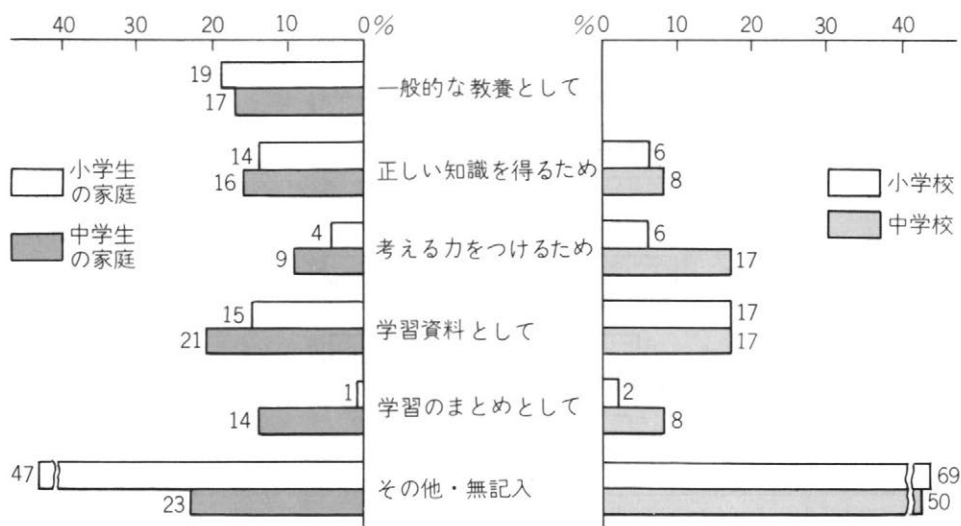
②学校における利用ラジオ番組

小学校では、ラジオ図書館・お話たまてばこ・ことばの教室・あいうえこくごなど、国語教材が多い。あとは〇年生の音楽と、国語・音楽関係の番組のみである。中学校では、英語講座と中学生の勉強室の両者に偏っている。

以上のことから明らかなように、家庭では、英語を中心に、ニュースなど一般教養的な面にまで利用されているが、学校では、英語・国語・音楽に限られて、利用されている。

(3) ラジオの利用のしかた

問17-エ 図46 どのようにラジオを利用しているか



①家庭における利用のしかた

小学生の家庭 ①一般的な教養として(19%)②学習資料として(15%)③正しい知識を得るため(14%)の順になっているが、小学生のうち、教養・知識を身につけさせようとして情報を集めるのに多く利用されている。その他に、体力づくりのためラジオ体操を利用している家庭がみられる。特殊なものとして、受験勉強のために利用されている。

中学生の家庭 ①学習資料として(21%)②一般的な教養として(17%)③正しい知識を得るため(16%)④学習のまとめ(14%)の順になり、小学生の家庭よりも、やや学習面に重きをおいて利用されている。しかし、やはり小学生の家庭同様に一般的な教養・知識を身につけさせることにも多く利用されている。

②学校における利用のしかた

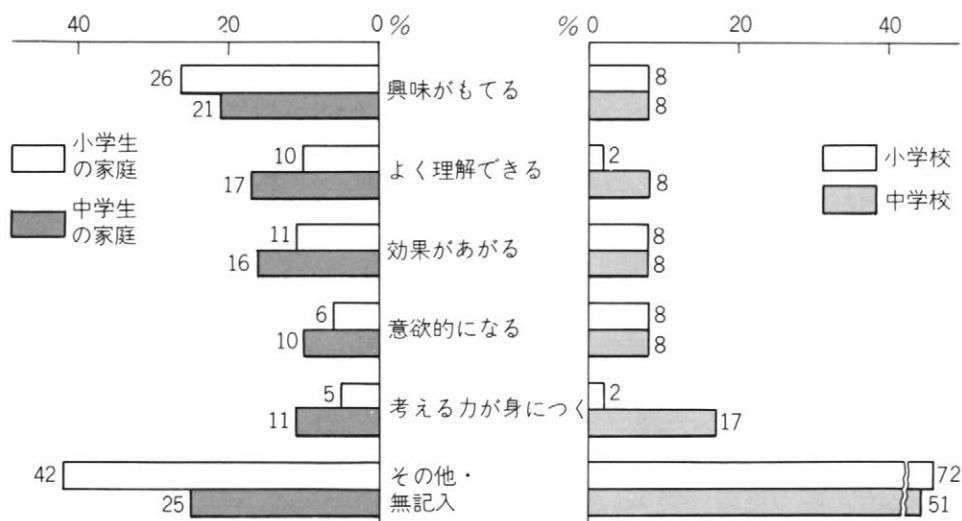
小学校・中学校ともに、授業に利用するため、学習資料として利用する面が最も多く、その他には、正しい知識を獲得させるために利用している。

③家庭と学校の利用上の相違点

家庭では、「教養・知識として」と「学習資料」の二面から利用されていることが多いが、学校においては、もっぱら「学習資料」として利用されることが多い。また、学校では、補助教材として利用している傾向が見られる。

(4) ラジオ利用しての効果

問17-オ 図47 どのような効果があるか



①家庭における利用しての効果

小学生の家庭 ①興味をもてる、②効果があがる、③よく理解できる、④意欲的になる、の順になっている。つまり、ラジオを利用するようになって、国語なり、英語なりに興味をもつようになり、理解力がついてきたことであろう。また、知識が豊富になり、話す内容も以前にもまして、深まってきたため効果があると答えたものと思われる。

中学生の家庭 小学生の家庭と同様の傾向が見られ、学習に興味をもち、意欲的になり、理解がよくなって、考える力もついてきたと受けとられている。

②学校における利用しての効果

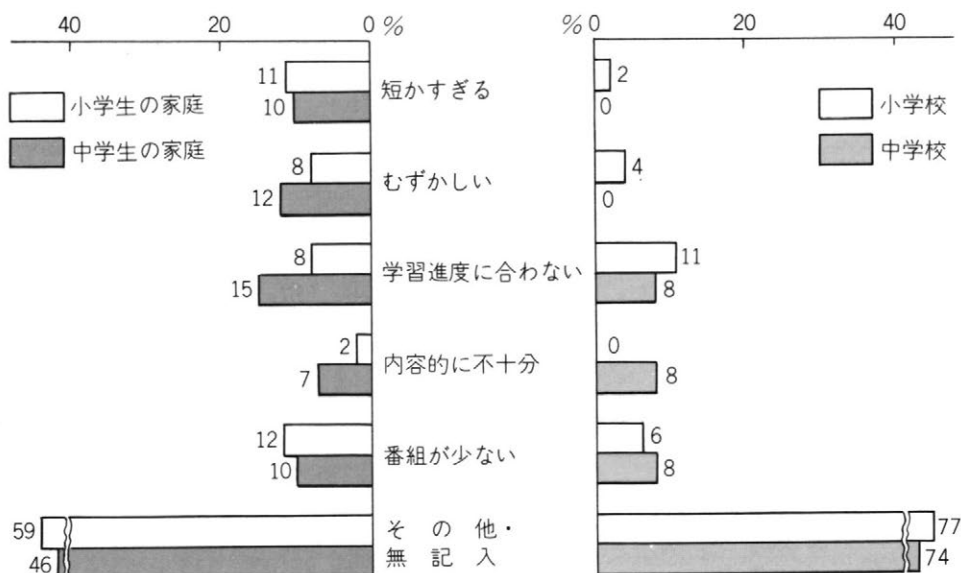
小学校の場合、無回答が多く参考にとどめる程度であるが、興味をもち、意欲的になることで、効果があると考えられている。中学校では、「考える力」がつくというのが一番多い。

③家庭と学校の相違点

家庭では、「興味をもてる」が一番多いが、「理解する力や考える力」などをも認めているが、学校では、「興味をもたせ、意欲的になる」という面でその効果が認められていると思われる。つまり、家庭と学校の利用の仕方の観点の違いが浮きぼりにされている。

(5) ラジオ利用の問題点

問17ーカ 図48 利用して、どんな問題点があるか



①家庭における利用の問題点

小学生の家庭 ①番組が少ない ②短すぎる ③むずかしい・進度にあわないの順になっているが、家庭においては、もっと、いろいろな面からの放送を要求している。また、利用時間から考えて、15分では、不十分で、30分から、45分ぐらいの放送時間を要求していると考えられる。もう一つの問題点は、学校の学習の補助または応用としての利用にとどまり、進度があわないことを不満としている。この点の解決が望まれている。

中学生の家庭 小学生とちがって、学校の授業の補充・応用に使うことが多く、進度があわないことに、最も不満をもっている。次いで、内容的にむずかしい、番組の時間が短いという意見が多い。その他放送時間帯を問題としている意見もでてくる。

②学校における問題点

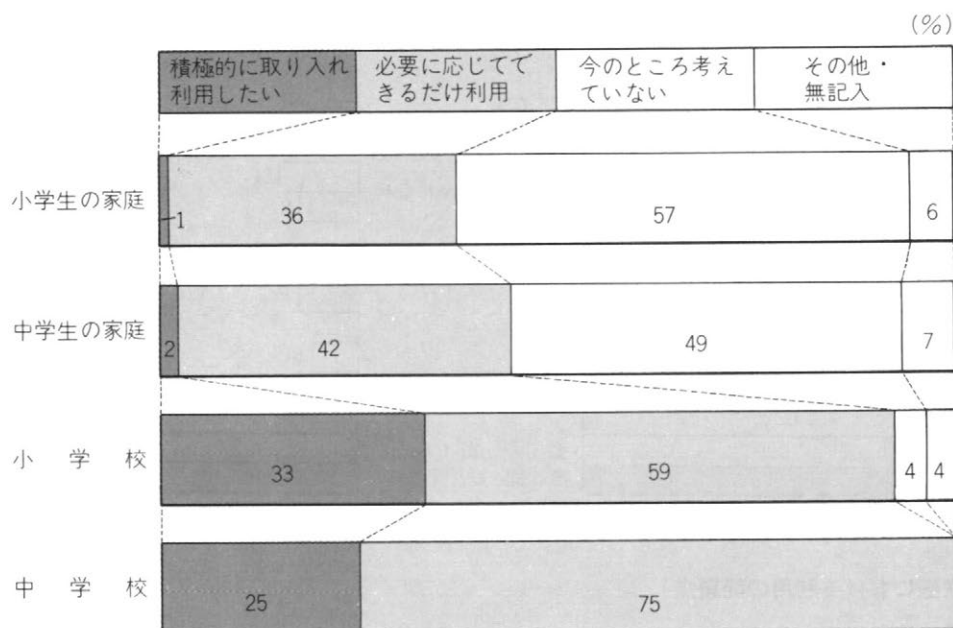
小学校 ①進度があわない ②番組が少ない ③むずかしいの順であるが、やはり授業に活用するため、進度が途中からあわなくなってくることに問題を多く感じている。次いで、番組が少ないので適当なものがなく、利用できないという面もみられる。

中学校 小学校と同じ傾向であるが、小学校にないものでは内容的に不十分であり、番組内容に問題を感じている面がみられる。学校でも家庭でも時間帯を問題にしている。

8. 学習機器に対する関心

(1) 学習機器利用についての関心

問18 図49 学習機器を積極的に利用したいか



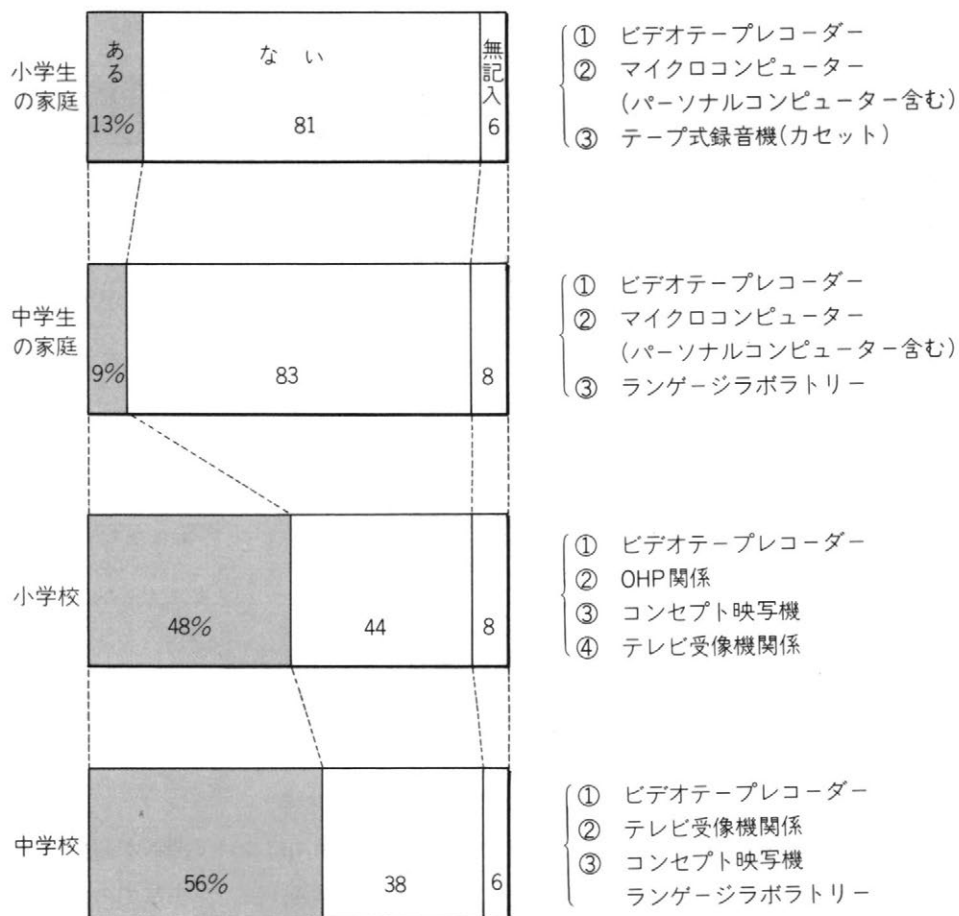
①家庭における学習機器への関心は、まだ低い。学習機器を積極的に取り入れ活用したいと考えている家庭は、ごく少数である。ただし、中学生の家庭では、小学生の家庭よりわずかに伸びている程度である。これは、必要に応じてできるだけ利用していきたいと考えている家庭が、小学生より中学生に多いのと呼応しているものととらえられる。

消極的な利用(今のところ考えていない)の理由として、その他に記された内容を付記すると、「英語は利用したい」「高校の段階で利用させたい」「現在は自然とのふれあいを重視」(小学生の家庭)、「今のままでよい」といったものがあげられる。

②学校では、学習機器利用についての関心が高い。学習機器の利用について、小学校では59%、中学校では75%が、必要に応じてできるだけ利用していきたいと考えている。これは、小学校より中学校のほうに顕著にあらわれている。しかし、積極的な利用については、中学校が25%に対して、小学校は33%と小学校段階における学習機器利用の関心が高まっている。このように、学校では学習の多様化に対して学習機器利用の関心が高まっている。

(2) 学習機器の購入希望と機器名

問19 図50 学習機器の購入予定の有無 - 2 図51 購入したい学習機器の種類



①これからの社会に対応した家庭における学習機器 今後2～3年の間に学習機器を購入したいと考えている家庭は10%程度であるが、その機器となるとこれからの時代を反映してコンピューター関係のものが上位を占める。小学生の家庭で4番目が、電卓応用機器といった状況である。中学生の家庭でも、語学習得に関係したLLが上位を占めている。

②時代の波にそぐわぬ学校の学習機器整備 小学校、中学校とも学習機器の購入には、積極性がみられるが、購入機器は、一斉指導型のものが多い。これは、教材基準等により年次計画をもとに学習機器の整備を図っていく傾向を示している。

(3) 購入したい学習機器の利用する教科・領域

問20 図52 購入したい機器で利用したい教科・領域

① 家庭の場合		② 学校の場合	
小学生	中学生	小学校	中学校
理科	英語	理科	全教科
英語	数学	社会	保健・体育
社会	社会	体育	社会
算数	理科	全教科	理科
音楽	一般的な教養	特活・算数	英語
国語		※校内放送	技術・家庭
※可能な限り有益に使いたい ※親が勉強したい	※音楽、鑑賞 ※記録		※遅進児の指導

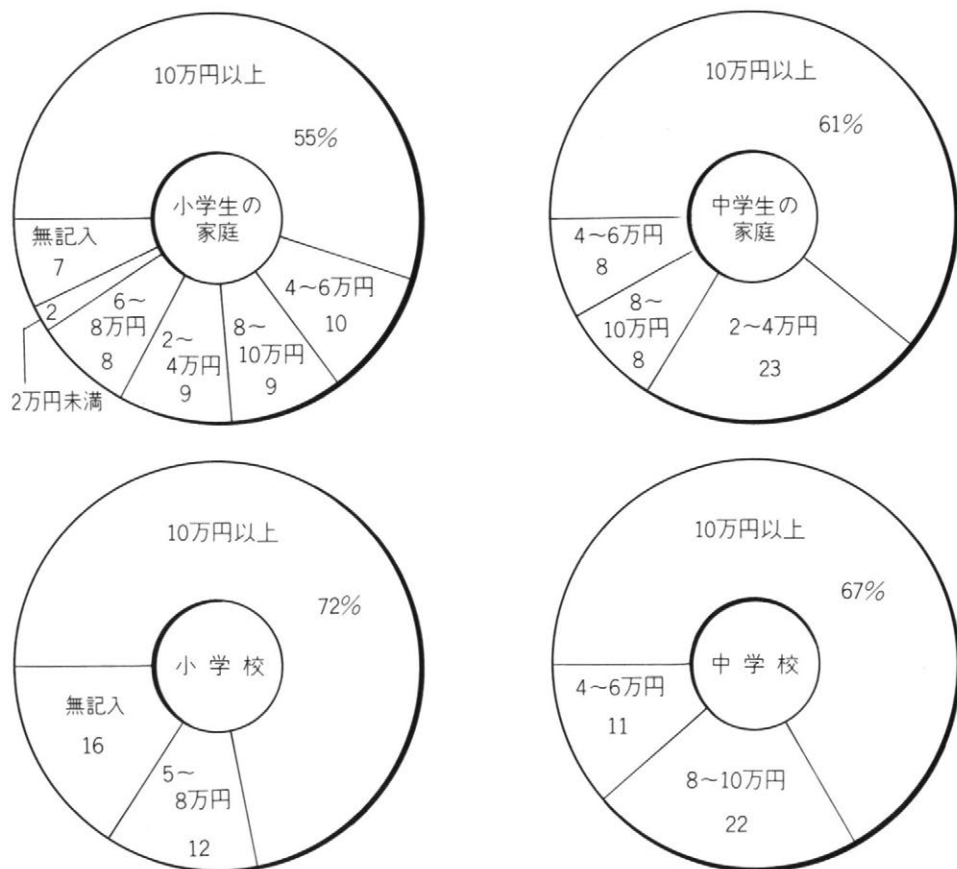
①英語を中心にした利用を考える家庭 英会話や語学関係の利用について関心が高いのは、中学生の家庭は当然としても、小学生の家庭でも関心を示している。また、家庭での特徴として、一般的な教養・知識を高めるために学習機器の活用を図っていこうとする傾向がある。

さらに、「参考になる番組等は録画してみせてやりたい」、「親が勉強したい」、「可能な限り有益に使いたい」などの意見があった。

②理科、社会を中心に利用したい学校 家庭でも理科、社会に関連して、学習機器を利用したいと考えている。また、小学校・中学校で体育・社会・理科に利用したいというのは、これらの教科の指導の充実を意図しているためであろう。中学校の遅進児の指導のように、個に対応した学習機器の利用による学力向上も見逃せない利用である。

(4) 購入希望の学習機器の価格

問21 図53 購入希望の学習機器の価格は、どのくらい



①購入希望機器の価格は、10万円以上 家庭および学校とも、購入希望の学習機器の価格は、10万円以上と回答されたものが、過半数をこえている。これは、購入希望機種(図51参照)をふまえたものである。これらのことから、家庭、学校とも、学習機器について、カタログや店頭において検討されるなど、関心の高いことがわかる。

②学習機器は、高い? 図50(機器購入予定)と対比してみると、家庭では、価格と必要度を考えていると思われる。小学生の家庭と中学生の家庭でみると、2~4万円が、9%(小)に対して23%(中)と2.5倍になっている。学校と家庭とでは、その購入システムの違いによるところが大きい。学習機器の購入にあたっては、現実的、実質的であり、関心度は相当高いものと判断できる。

III 調査の考察

1 学習機器利用の改善についての考察

(1) 家庭では漠然とした購入による利用が多い。

学習機器として十分な機能を備えているにも拘らず、家庭では、単なる生活情報、娯楽などを目的とした購入が多い。購入の目的が、利用のしかたにも直接結びついた形で表れている。小学生と中学生で差が明瞭なのは、中学生のテープ式録音機(カセット)の保有率で80%を示していることである。英語学習や音楽鑑賞用としての利用が高くなるからである。しかし、シート式録音機では、小学生の保有率の方が高い。このことから、中学生になれば学習機器の保有率が高くなるとは言えないことがわかる。むしろ学習機器に付属する市販教材の有無や量・質が大きく左右していると考えられる。

学校での学習機器の保有率と利用率では、8ミリ・コンセプト映写機、スライド映写機・テレビ受像機において、いずれも小学校の方が高く、中学校では印刷メディアを中心とした授業であることがわかる。しかし、VTRでは中学校の利用が高いので、授業における学習機器の利用について、さらに研究する余地が残されているといえる。生徒の学習に対する興味・関心や意欲、理解力や思考力を高めるためにも、学習機器の有効な利用を積極的に考える必要があると考える。

学習機器として購入している場合、「教養を身につけるため」「基礎学力を身につけるため」という理由を挙げている家庭が、小・中学生共に高い。これは、学習用という目的をもって購入されているので当然のことといえるが、「教養を身につけるため」が上位にある点に注目したい。しかし、中学生になると、「基礎学力を身につけるため」「成績をあげるため」という家庭が多くなり、高校進学対策として学習機器を購入する傾向がみられる。

学校の購入の理由が「学習効率を高めるため」とはっきりした目的意識をもっているのに対し、家庭での購入の理由がさまざまなのは、学習機器の利用に際して、漠然と効果がありそうだからと考えている家庭が多いことを示している。この点から、家庭において学習機器を購入する場合、子どもと十分対話をして、はっきりした目的意識をもつことが、購入以後の利用を活発にするのではないかと考えられる。

(2) 家庭の利用は学校に比べて低い

小・中学生では、週1～2回の利用が最も多い。小学生では、1年に数回の利用と全く利用

しないが合わせて27%に及び、購入はしたが利用していない家庭が多いことを示している。それに反して、中学生では、週1～2回24%、毎日利用20%と、小学生より積極的な利用がみられる。それは、利用時間にも表れている。

小・中学生共に利用時間では、15分～30分が最も多く、学習機器の利用は相当の集中力を要するので、長時間利用が難しいことを示している。毎日一定時間計画的に利用することが効果的ではないかと考えられる。

学校別では、小学校で週1～2回が多く、時間も15分～30分が多い。それに比べ中学校では毎日が56%で圧倒的に多い。時間的には小学校と同じであるが、教科によって利用度が偏っている。いずれにしても、学習過程のある段階での特定時間内の利用が多いからだといえる。

(3) 家庭では英語の利用が最も多い。

小・中学生では、中学生の英語が64%、次いで小学生の音楽32%、英語24%の順になっている。小学生で「教養を身につけるため」を理由に挙げているのは、音楽と英語を指していることが明瞭である。中学生で英語が多いのは、「教養を身につける」「基礎学力を身につける」という両方の購入の理由を裏付けている。

小・中学生では、英語と音楽の利用が高いのに比し、他教科の利用は低い。このことから家庭における学習機器の利用は、英語、音楽という特定の2教科に限定されていることがわかる。今後、算数(数学)、社会、国語、理科など利用について、積極的に取り組む必要がある。

(4) 学校での利用は、社会、英語、理科の順

小・中学校共に社会科での利用が最も多く、豊かな情報、新鮮で臨場感溢れ、迫真力のある映像や音声を有するテレビ、映画、OHP、テープ式録音機の利用度が高い。中学校の英語が81%と高いのは、プログラム化された教材の利用の効果を認め、学習効果を高めることができるからである。第3位は理科になっているが、自然現象を映像でわかり易く提示できる利点を利用の理由であると考えられる。

しかし、基礎学力としての国語や算数(数学)、造形活動としての図工・美術、実習の多い家庭・体育・保健で少ないのは、適当な教材が乏しく利用がしにくいことを示している。これらの教科でも豊かな情報提示としての学習機器の積極的な利用が望まれる。

(5) 授業では問題把握の段階での利用が多い。

授業における学習機器の利用場面は、「導入としての問題把握の段階」での利用が最も多い。利用度の高い社会科が含まれているので当然のことといえる。次いで「学習のまとめの段階」が多く、「学習の調べる段階」での利用は第3位になっている。

学校における学習機器の利用は、導入と終末の段階での利用が中心であり、一斉指導という指導形態との関連的な利用という特徴を示している。この点から考えると、学習の個別化とい

う面での利用は、まだ立ち遅れているといえよう。学習機器が、児童・生徒の能力差に対応して、個別化学習に利用されたとき、さらに異なった学習効果が期待できるが、現状では教師中心の授業形態の過程における利用に留まっているといえる。

(6) 小学生は教養、中学生は復習が最上位

小中生共に平均して「復習」に利用している者が多い。教材そのものが授業後の復習を前提として編集されているからであり、問題中心の内容が多いからだと考えられる。「教養」としての利用が高いのは、やはりテレビの利用であろう。その中に英語、音楽なども含まれると思われる。いずれにしても、学校の利用と相当の差異が見られる。

(7) 小学生は市販教材、中学生は番組テキストの利用が多い。

学習機器を利用するときの教材としては、小学生では市販教材、中学生では、番組テキスト、市販教材の利用が多い。学校では、小学校が自作・番組テキスト・市販教材、中学校が、市販教材、自作教材・番組テキストの順となっている。小・中学校共に自作教材が多いのは、市販教材を利用しながらも、その不十分さを補う必要が生じ、ビデオ教材、スライド、TP教材、録音教材などの自作教材に力を入れていると考えられる。市販教材の利用も高いので多分併用という形で利用されているのではないかと予測される。

学校と比べて、家庭では市販教材の利用が中心になるので、今後質の高い市販教材の提供や学習機器を効果的に利用できる番組テキストの作成が望まれている。その点では、小・中学校では、望ましい形で教材が利用されているといえる。

(8) 小・中学生共学習機器の効果を認めているが…

小学生では30%、中学生では42%が「ある程度効果がある」として、学習機器の効果を認めている。しかし、「あまり効果なし」と「ほとんど効果なし」を合わせて、小学生では25%、中学生で21%という数字を示している点に注目する必要がある。これは、家庭における学習機器の利用の効果が、使用教材と関連しているからである。市販教材は画一化されているため、児童・生徒の能力差に対する配慮はまだ不十分であり、理解が困難な場合のフィードバックが適切でないためであろう。プログラム化されている市販教材は、学習のある段階で理解できなくなると進行することが不可能となることが多い。能力差に対応したり、つまずきに対応したフィードバックが適切に行われないと、学習機器の利用が停滞したり、中断する。市販教材の購入に際して、児童・生徒に適した内容を選択する必要がある。

その点、学校では、教師を中心とした学習機器の利用なので、効果的な利用がなされている。学校と家庭では、家庭における学習機器の利用のしかたについて、さらに改善していく必要がある。特に市販教材の内容の質的改善に努め、プログラムの画一化に留まることなく、能力に対応したプログラムを作成し、利用者にとって最適な教材を提供する努力が必要であろう。

(9) 興味・理解・集中力を高める効果

学習機器を利用した効果として、小・中学生では、「学習への興味」「理解の深まり」「集中力の高まり」を挙げている。小学生では興味、中学生では理解が最上位を占めている。しかし、17～18%の割合に留まり、学習機器を利用した効果が歴然とは表れていない。その点、学校では、小・中学校共、学習への興味や理解への効果を30%前後の割合で認めており、学校と家庭における効果では、学校の方がはるかによい結果を示している。家庭における学習機器の利用が思った程、適切に行われていない表れといえよう。

学習機器の利用による性格、行動面の効果に関しては、小学生16%、中学生20%が認めている。「あまり変わらない」が、40～50%の割合を占めていることから比べると、性格・行動面への効果はそれほどないといえる。しかし、効果を認めている理由として「自分から工夫するようになった」「人に頼らなくなった」など、自主性の高まりを挙げている点が目立つ。

(10) 学校では利用上の困難点が多い

学習機器を利用する上での問題点としては、小・中学生共「困ったことがある」が3～6%で少なく、逆に学校では、小・中学校共64%、75%になっている。家庭では、ハードウェアとしての機器やソフトウェアそのものを利用することが精一杯で、内容についてまで批判するまでに至っていない。それに反して学校では、指導計画に基づいて学習過程における利用がされているので、多くの問題をもっている。

困難点としては、家庭では価格が高いことを問題に挙げているが、学校では、学習機器利用の環境条件の整備に関するものが多い。教材よりも学習機器利用の環境整備に困難点を感じている実態こそ問題であろう。むしろ、価格や利用の環境整備よりも、機器の機能や教材の内容それ自体に着目し、学習の効果に結びつく困難点についての問題が多く取り上げられるべきである。

(11) 態度・性格面で気になること

学習機器利用による態度・性格・行動面の問題点を挙げているのは、小・中学生、学校共2%～4%で少ない。問題点の割合は少ないが、中学生で「自分から調べようとしなくなった」(33人)「部屋にとりこもりがち」(20人)「視力が落ちた」(13人)、小学生で「視力が落ちた」(15人)が気になるところである。学習機器利用から生じる問題の兆候ともいえるからである。しかし、現状ではまだ明確な結論を急がない方がよさそうである。

(12) テレビの利用は社会、理科、英語、道徳が多い。

テレビの利用を教科類型でみると、家庭・学校共に社会と理科が1・2位を占め、豊かで新鮮な情報をもつ番組が多く視聴されている。家庭では教養を高める目的で視聴され、学校では社会的現象や自然現象を映像を通して視聴させ、学習効率を高めることをねらっている。

また、家庭では小学生の音楽が第3位、中学生の英語が第2位を占めており、小学生の音楽も教養を高めるためであり、中学生の英語は、基礎学力を高めたり、会話力を高めることが主眼で、中学生の英語の利用にテレビの学習機器としての効果がみられる。このことは、中学校での英語が第3位の利用になっていることからいえる。

(13) テレビの利用目的は家庭では教養、学校では学習資料として

テレビを利用する目的は、小・中学生の家庭が「教養として正しい知識を得る」が30%以上で第1位である。逆に学校では、「学習資料」として小学校40%、中学校50%で圧倒的に高い。家庭では「考える力をつける」が20%以上で小・中学生共に第2位、小学校でも「考える力をつける」が第2位となっている。中学校では「学習のまとめ」が第2位で、「考える力」は4%と低くなっている。

家庭や小学校では、知識や思考力を高めるために利用しているが、中学校では学習効率を高める意図による利用が明瞭である。

(14) テレビの利用は児童・生徒の興味を高める

テレビを学習に利用しての効果としては、家庭・学校共に「興味をもてる」が最も多い。第2位としては「よく理解できる」となっている。テレビは、児童・生徒に興味をもたせ、正しい知識を理解する上で効果があるといえる。「考える力が身につく」は小学校で2%、中学校で0%となっていることから、思考力を高めるための内容よりも知識情報としての内容の番組が多いことを示している。家庭で考える力が14%になっているのは、クイズ番組の視聴の効果を指しているものとみられる。

(15) テレビ番組は学習進度に合わない

テレビを教材で利用する場合「学習進度に合わない」が、小・中学校共33%で1位である。「難しい」「合わない」「不十分」の合計は、小学生で17%、中学生で28%、小学校で43%、中学校で54%を示し、番組編成・番組内容についての不満が多い。

また、小・中学生向けの教育番組が少ないという批判も多く、小学生で26%、中学生で19%となっており、小・中学生向きの教育番組の充実を希望している。

学校では生放送の視聴に限界があり、全国一斉の同時放送という面からも、地域性や児童・生徒の実態に合わない放送内容の改善が指摘されている。また、家庭におけるテレビ番組でも小・中学生向きの良い教育番組の放送と、番組紹介やテキストなどを提供することによって、テレビを利用した学習が一層高まるのではないかと考える。

(16) 小・中学生のラジオの利用は英語が中心

小・中学生のラジオの利用の1日平均は15~30分で、40%、54%と高い数値を示している。ラジオの利用が意外と多いのに驚く。教科としては英語が一番で、小学生54.9%、中学生

63.2%、中学校50%と利用している。教養として基礎学力として、ラジオの英語番組が効果をあげていることがわかる。この理由としてラジオ英語講座のテキスト(教材)の普及と活用を挙げることができよう。ラジオもテレビと同様に、教養を高めたり、学習資料としての有効性があり、児童・生徒が興味をもって利用している。しかし、英語、ラジオ図書館、中学生の勉強室のような良い教育番組が少ないという声も高い。また、「放送番組が短い」「内容が難しい」「内容が不十分」などの問題も挙げられており、テレビ利用と同じようにラジオの教育番組の充実を望む意見が多い。

(17) 家庭より学校の方が機器利用への関心が高い。

「学習機器を積極的に利用したいか」については、小・中学生は利用したいと答えた家庭が37%、44%であるのに対し、小学校では93%、中学校では100%利用したいと答えている。このことから、授業における学習機器の利用についての関心は高いといえる。これは、ひとりひとりの児童・生徒に、教科の基礎的、基本的内容を理解させるためには、学習効率という面からも学習機器の利用が必要であることを示している。今後、教科の特性や各学校の指導計画や指導法に適した学習機器や教材の普及が課題といえる。

家庭においても、学習機器としての利用について一層関心を高め、既存の機器の学習用としての利用の工夫や、経済的条件や児童・生徒の学習能力に適した学習機器の購入と利用が必要になってくるであろう。現状では、半数以上が利用を考えていないので、関心が低いといえる。今後の成り行きに注目したい。

(18) 購入したい学習機器はVTR

学習機器の購入希望としては、家庭・学校共VTRが第1位であり、家庭では情報、娯楽をも含めていると思われるが、学校の場合、生放送の教育番組の効果的な利用法として、VTRによる録画・再生がその理由であると考えられる。また、家庭ではマイクロコンピューターが第2位、小学校ではOHP、中学校ではテレビ受像機が第2位となっている。家庭では効率的な処理としてマイクロコンピューターに関心が集まり、学校では、保有の実態に基づく補充という現実的対応が見られ、購入希望の動機は学校の方が、利用目的を明確にとらえているようだ。

購入した学習機器で利用したい教科は、小・中学生は英語を中心として、理科、算数(数学)、社会で、小学校は、理科、社会、体育の順、中学校では、保健・体育、社会、理科の順で、保健・体育の利用が上位にあるという特徴がみられる。実技や保健指導における有効な利用を求めているのであろう。

家庭でも学校においても、現在学習機器を利用して効果をあげている場合には、他機種の学習機器を購入し利用したいという希望が強い。しかし、学校においては情報提示としての学習機器に重点がおかれ、学習の個別化をめざす学習機器の導入は立ち遅れているといえよう。

2 学校と家庭の機器利用の連携方法

(1) 学習利用としての機器の活用

家庭における学習機器の保有率が高いのは、テレビ受像機、ラジオ受信機、テープ式録音機、レコード演奏装置の4機種が最も多い。これは小・中学校にもいえる共通の機種である。しかし、その利用においては、家庭は報道、教養、娯楽が主なものに対して、学校では授業における学習資料としての利用が中心となっている。家庭においてもっと学習利用が工夫されているならば、児童・生徒の学習に対する興味・関心や意欲が高まり、理解力や思考力を一層高めることができるのではないかと考える。

(2) テレビ・ラジオの効果的な利用の連携方法

家庭でも学校でも、テレビやラジオの利用率は高い。テレビやラジオは受動的な漠然とした利用では学習効果をあげることができない。番組の制作の意図や主な内容を事前に把握しておいて、児童・生徒自身が利用目的や番組に対する問題意識をもったとき、能動的な利用ができ学習効果をあげることができる。

学校における授業では、番組利用や教材についての指導を行いながら、学習機器の有効な利用を工夫し、学習効率を高めている。学校における学習機器の利用のしかたを、家庭における利用に生かすことが大切である。家庭は家庭、学校は学校という利用のしかたを改め、学校は機器利用の基本について家庭の指導を強化する必要がある。

また、学校で視聴しているテレビ・ラジオの番組については、親自身が家庭で視聴し、子どもと対話の機会を得るなど親子同時視聴を実施することも効果的である。その他にも、授業に関連の深い番組や児童・生徒の教養を高めるのに相応しい番組などを積極的に紹介したり、よい番組の利用に対し、学校側や放送局側の積極的な啓蒙活動が望まれる。テレビ・ラジオの効果的な利用については、放送内容の質的向上を図るため、番組テキストを含めて利用者の反応を受け入れ、改善策を講じることも重要である。

学校としても、家庭における学習機器の利用の増加という実態を直視して、学習機器の保有の実態、利用状況、利用の効果や問題点について把握し、機器利用の実態に即した指導を行うことが、望ましい家庭学習を促進する意味からも大切であり、今後の課題といえよう。

(3) その他学習機器の効果的な利用の連携方法

児童・生徒が多く利用している学習機器としては、テレビ・ラジオの他に、テープ式録音機、レコード演奏装置、電卓応用機器、VTRなどがある。これらの機器はほとんどが市販教材によって利用されている。購入方法も利用方法もすべて家庭まかせというのが実情である。

しかし、その利用の目的は授業とのかかわりをもっているので、家庭における学習機器の利

用のしかたの良否が、学校の授業に影響し、ひいては児童・生徒の学習成績にまで関連する。市販教材がどのような目的で編集され、どんな効果が得られるか、また、利用上どんな点に留意したらよいかなど、機器の選択や利用についての基本的なことがらを助言・指導する必要がある。そのためにも、学校としても市販の学習機器の実態や教育的効果や配慮などが適切になされているか検討しておくことも大切である。そのことが家庭学習の望ましいあり方を考える上からも重要だからである。

現状では、学習機器を利用していながら十分に効果をあげている家庭は少ない。これは、学習機器の効果的な利用のしかたについての理解の乏しさが原因と考えられる。また、学習機器としての映像や音声の教材は、教科書や参考書、問題集などの他教材との関連の利用によって効果を発揮できるという特性を有しているものが多い。単に、学習機器さえ利用すれば学習効果があがると考えている家庭も多いので、適切な助言・指導が望まれる。

(4) 学習機器の特性を生かした効果的な利用の連携方法

家庭において学習機器を利用している教科としては、テレビでは、社会、理科、英語、道徳が多く、ラジオ、テープ式録音機では圧倒的に英語が多い。しかし現状では、各機種の特性を生かした利用の工夫がなされていない。また、社会的事象を対象とする社会と、自然現象を対象とする理科、英文法を中心とする英語、道徳的価値感に基づく人間の生き方を学ぶ道徳では、それぞれ教科のねらいや内容、学び方に特性がある。学習機器と利用する教科の学習という両者の特性を生かしてこそ、効果的な利用ができるのである。

学習機器は、市販教材を使用して利用するという独自性をもっているが、その利用に際しては、教科の学習のどの段階のどの部分の学習をしているのかという理解が大切である。このような理解をもっていないと、学習機器万能という誤った利用に陥り、逆効果を招く恐れがある。できるだけ各教科の学習のあり方について家庭に正しい理解を深め、機器の最適な利用法をうながすことが大切である。

(5) 学習機器利用の問題点の解決のための連携方法

家庭における学習機器利用上の問題点は少ないが、「自主性に欠けた」「部屋にとじこもりがち」「視力がおちた」などの問題が指摘できる。学習面、性格面、行動面、健康面などに問題が生じることもあり得る。また、記憶中心の学習型や受動的な学習態度に偏る傾向がみられることもある。

それらは、個々の子どもの性格や健康状態によって、表れ方が異なっていると考えられる。しかし、いずれにしても、児童・生徒の学習・性格・行動面によくない傾向がみられたら、直ちに利用法を改善し阻害事項を除去することが大切である。学習機器利用に伴う問題点の解決についても、学校と家庭の連携による対策が必要となるであろう。

調 査 協 力 校 一 覧

小 学 校

北 海 道	桧 山 郡	南が丘小学校
青 森 県	八 戸 市	湊小学校
	十和田市	北園小学校
秋 田 県	秋 田 市	中通小学校
岩 手 県	盛 岡 市	仁王小学校
山 形 県	山 形 市	第四小学校
宮 城 県	石 巻 市	住吉小学校
福 島 県	郡 山 市	金透小学校
	双 葉 郡	双葉南小学校
茨 木 県	結 城 市	結城小学校
栃 木 県	日 光 市	清滝小学校
群 馬 県	前 橋 市	中央小学校
	桐 生 市	境野小学校
埼 玉 県	大 宮 市	大砂土東小学校
	越 谷 市	蒲生南小学校
千 葉 県	八 千 代 市	勝田台南小学校
	千 葉 市	北貝塚小学校
東 京 都	世 田 谷 区	松沢小学校
	文 京 区	林町小学校
	新 宿 区	四谷第六小学校
	日 野 市	南平小学校
	江 東 区	東砂小学校
	墨 田 区	立花小学校

東京都	練馬区	石神井小学校
	江東区	南砂西小学校
	品川区	小山台小学校
	世田谷区	武蔵丘小学校
	世田谷区	希望丘小学校
	練馬区	中村小学校
	品川区	品川小学校
神奈川県	平塚市	花水小学校
新潟県	十日町市	下条小学校
富山県	富山市	星井町小学校
	東砺波郡	井波小学校
石川県	金沢市	馬場小学校
	鹿島郡	鳥屋小学校
福井県	吉田郡	松岡小学校
静岡県	盤田郡	青城小学校
愛知県	豊橋市	向山小学校
三重県	松坂市	松江小学校
	名張市	蔵持小学校
滋賀県	大津市	長等小学校
	近江八幡市	北里小学校
京都府	綾部市	奥上林小学校
大阪府	守口市	庭窪小学校
奈良県	桜井市	城島小学校
和歌山県	田辺市	新庄小学校
兵庫県	小野市	大部小学校
島根県	平田市	平田小学校
岡山県	岡山市	操南小学校
	笠岡市	金浦小学校
広島県	庄原市	庄原小学校

山 口 県	下 関 市	吉見小学校
	小 野 田 市	赤崎小学校
徳 島 県	徳 島 市	八万小学校
愛 媛 県	喜 多 郡	内子小学校
大 分 県	大 野 郡	大恩寺小学校
熊 本 県	山 鹿 市	山鹿小学校
	球 磨 郡	湯前小学校
宮 崎 県	日 向 市	富高小学校
	西 都 市	妻北小学校
鹿 児 島 県	鹿 児 島 市	山下小学校
沖 縄 県	島 尻 郡	津嘉山小学校

中 学 校

青 森 県	青 森 市	造道中学校
秋 田 県	南 秋 田 郡	大潟中学校
茨 城 県	水 戸 市	第一中学校
栃 木 県	栃 木 市	栃木西中学校
埼 玉 県	大 里 郡	寄居中学校
東 京 都	千 代 田 区	九段中学校
	八 王 子 市	第一中学校
	東久留米市	久留米中学校
	練 馬 区	上石神井中学校
	中 野 区	中央中学校
富 山 県	富 山 市	水橋中学校
福 井 県	鯖 江 市	東陽中学校
長 野 県	下 伊 那 郡	高陵中学校
静 岡 県	浜 北 市	北部中学校

滋 賀 県	彦 根 市	西中学校
鳥 取 県	鳥 取 市	高草中学校
島 根 県	大 原 郡	大東中学校
広 島 県	福 山 市	誠之中学校
山 口 県	光 市	島田中学校
愛 媛 県	大 洲 市	大洲南中学校
高 知 県	吾 川 郡	伊野中学校
長 崎 県	長 崎 市	桜馬場中学校
宮 崎 県	宮 崎 市	宮崎東中学校
鹿 児 島 県	鹿 児 島 市	坂元中学校

※ 家……家庭対象 学……学校対象

家学【1】あなたの家庭(学校)には、児童・生徒の学習用として、どんな種類の学習機器がありますか。下の表の㉠～㉣の各項目について、該当する欄に○印や数字を記入してください。

(㉠～㉣以外の機器については空欄に記入して答えてください。)

学 習 機 器 の 種 類	有	無	台 数	学習用として 使用している	学習用としては 使用していない
ア 8 ミリ 映 写 機					
イ コンセプト映写機					
ウ スライド映写機					
エ テレビ受像機					
オ ビデオテープレコーダー					
カ ラジオ受信機					
キ テープ式録音機(オープン)					
ク テープ式録音機(カセット)					
ケ レコード演奏装置					
コ シート式録音機					
サ ランゲージラボラトリー					
シ コンピューター					
ス マイクロコンピューター					
セ 電卓応用機器					
ソ					
タ					

(㉠㉡のテレビ受像機㉢のラジオ受信機だけの人は、設問㉣に進んでください。)

*用紙最後の備考をご参照のうえ記入ください。

家学【2】あなたの家庭(学校)では、どんなきっかけで学習機器を購入しましたか。次の①～⑭の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 新聞・雑誌などの広告を見て | ⑧ 塾などの先生にすすめられて |
| ② カタログを見て | ⑨ 子どもの友人が使っていたので |
| ③ テレビのコマーシャルを見て | ⑩ 展示会を見にいった |
| ④ 店頭の実物を見て | ⑪ 研究会に出席して |
| ⑤ 訪問販売員に勧誘されて | ⑫ 教育図書などの研究物を読んで |
| ⑥ 知人にすすめられて | ⑬ 現物が手に入ったから |
| ⑦ 学校の先生にすすめられて | ⑭ その他 () |

家学【3】あなたの家庭（学校）で、学習機器を購入された理由は何ですか。次の①～⑧の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| ① 学校の成績をよくするため | ⑤ 学習効率を高めるため |
| ② 学校や塾で使っているから | ⑥ 学習の遅れをとりもどすため |
| ③ 受験勉強に役立てるため | ⑦ 一般的な教養を身につけるため |
| ④ 基礎学力を身につけるため | ⑧ その他（ ） |

家学【4】あなたの家庭（学校）では、児童・生徒の学習に、どの程度学習機器を利用していますか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- | | | |
|---------------|-------------------------------|---------------------------------|
| ① 全く利用していない | ④ 1週間に1・2回ぐらい | ⑧ 学校の場合、児童・生徒1人に対する利用度で答えてください。 |
| ② 1年に数回ぐらい | ⑤ ほとんど毎日 | |
| ③ 1か月に1・2回ぐらい | ⑥ その他（ ） | |

家学【5】あなたの家庭（学校）で学習機器を利用する場合、1回の所要時間はどのくらいですか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- | | |
|----------|-------------------------------|
| ① 15分以内 | ④ 45～60分 |
| ② 15～30分 | ⑤ 1時間以上 |
| ③ 30～45分 | ⑥ その他（ ） |

家学【6】あなたの家庭（学校）では、どんな教科や領域で学習機器を利用していますか。次の①～⑫の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- | | | | |
|----------|----------|-------------------------------|-------------------|
| ① 国語 | ⑤ 音楽 | ⑨ 英語 | ⑩ 2つ以上選んでもよろしいです。 |
| ② 社会 | ⑥ 図工（美術） | ⑩ 道徳 | |
| ③ 算数（数学） | ⑦ 体育（保健） | ⑪ 特別活動 | |
| ④ 理科 | ⑧ 家庭（技術） | ⑫ その他（ ） | |

学【7】あなたの学校で学習機器を利用するのは、おもに学習のどのような段階ですか。次の①～⑥の中から該当する項目を2つ選んで、番号を□に記入してください。

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| ① 学習のはじめの段階 | ④ 学習内容の練習の段階 |
| ② 学習の調べる段階 | ⑤ 学習結果のテストの段階 |
| ③ 学習のまとめの段階 | ⑥ その他（ ） |

家【8】あなたの家庭で学習機器を利用するのは、おもにどんな学習のときですか。次の①～⑥の中から該当する項目を2つ選んで、番号を□に記入してください。

- ① 予習をするとき ④ 受験勉強をするとき
 ② 復習をするとき ⑤ 教養を高める学習として
 ③ 宿題をするとき ⑥ その他 ()

--	--

家学【9】あなたの家庭(学校)で学習機器を利用するとき、使用する教材(ソフトウェア)はどれですか。次の①～⑤の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- ① 学習機器に付属している専用の教材 (※2つ以上選んでもよいです)
 ② 一般に市販されている教材
 ③ ラジオ・テレビの番組のテキスト
 ④ 自作教材
 ⑤ その他 ()

--

家学【10】あなたの家庭(学校)で学習機器を利用するようになってから、児童・生徒にどんな学習の効果がありましたか。次の①～④の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- ① 大変効果があった。 ③ あまり効果がなかった。
 ② ある程度の効果があった。 ④ ほとんど効果がなかった。

--

家学【10-2】①と②を選んだ人は、次の①～⑩の中からその理由を3つ選んで、番号を□に記入してください。

- ① 学習を進んでやるようになった。
 ② 学習に対する集中力が高まった。
 ③ 学習内容を理解するようになった。
 ④ よく考えて学習するようになった。
 ⑤ 長い時間学習できるようになった。
 ⑥ 学習のしかたが身についてきた。
 ⑦ 自分からいろいろ調べるようになった。
 ⑧ 興味をもって学習するようになった。
 ⑨ 自己評価ができるようになった。
 ⑩ 計画的に学習をするようになった。
 ⑪ その他 ()

--	--	--

⑩ 計画的に学習しなくなった。

⑪ その他 ()

家【15】あなたの家庭で、学習機器を利用するようになってから、児童・生徒の性格や行動で気にかかることはありませんか。次の①～②の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

① 特に気になることはない。 ② ある。

家【15-2】②を選んだ人は、次の①～⑩の中から、その理由を3つ選んで番号を□に記入してください。

- ① 部屋にとじこもりがちである。 ⑥ 家族との接触が少なくなった。
 ② 友人とあまり遊ばなくなった。 ⑦ 視力がおちてきた。
 ③ 夜ふかしをするようになった。 ⑧ 聴力がおちてきた。
 ④ 運動不足になり、体力がおちた。 ⑨ 落ちつきがなくなった。
 ⑤ 口かずが少なくなり性格が暗くなった。 ⑩ その他 ()

家学【16】あなたの家庭(学校)では、児童・生徒の学習にテレビをどのように利用していますか。

下の表の㉑～㉒の各項目について、該当する欄に○印や文字を記入してください。

(㉑テレビを学習に利用している人だけ答えてください。)

	項 目	回 答 欄
ア	・1日平均の利用時間	1. 15分以内 2. 15～30分 3. 30～45分 4. 45～60分 5. 1時間以上
イ	・利用している教科名	記入 (㉑2つ以上書いてもよろしいです。)
ウ	・利用している番組名	記入 (㉑2つ以上書いてもよろしいです。)
エ	・利用のしかた ㉑2つ選んでください。	1. 一般的な教養として 2. 正しい知識を得るため 3. 考える力をつけるため 4. 学習資料として 5. 学習 のまとめとして 6. その他 ()
オ	・利用しての効果 ㉑2つ選んでください。	1. 興味もてる。2. よく理解できる。3. 考える力が身 につく。4. 意欲的になる。5. 効果があがる。6. その他 ()
カ	・利用しての問題点 ㉑2つ選んでください。	1. 短かすぎる。2. むずかしい。3. 学習進度に合わない。 4. 内容的に不十分。5. 番号が少ない。6. その他 ()

(㉑教育番組でなくても教科に関連のある番組であればよい。)

家学【17】あなたの家庭（学校）では、児童・生徒の学習にラジオをどのように利用していますか、下の表の㉗～㉚の各項目について、該当する欄に○印や文字を記入してください。

か、下の表の㉗～㉚の各項目について、該当する欄に○印や文字を記入してください。

(㉛ラジオを学習に利用している人だけ答えてください。)

	項 目	回 答 欄
ア	・1日平均の利用時間	1. 15分以内 2. 15～30分 3. 30～45分 4. 45～60分 5. 1時間以上
イ	・利用している教科名	㉛2つ以上書いてもよろしいです。 記入（ ）
ウ	・利用している番組名	㉛2つ以上書いてもよろしいです。 記入（ ）
エ	・利用のしかた ㉛2つ選んでください。	1. 一般的な教養として 2. 正しい知識を得るため 3. 考える力をつけるため 4. 学習資料として 5. 学習 のまとめとして 6. その他（ ）
オ	・利用しての効果 ㉛2つ選んでください。	1. 興味もてる。2. よく理解できる。3. 考える力が身 につく。4. 意欲的になる。5. 効果があがる。6. その他 （ ）
カ	・利用しての問題点 ㉛2つ選んでください。	1. 短かすぎる。2. むずかしい。3. 学習進度に合わない。 4. 内容的に不十分。5. 番組が少ない。6. その他 （ ）

(㉛教育番組でなくても教科に関連のある番組であればよい)

家学【18】あなたの家庭（学校）では、今後、学習機器を積極的に取り入れて、利用したいと考えていますか。次の①～④の中から該当する項目を選んで、番号を□に記入してください。

- ① 積極的に取り入れて利用してみたい。
② 必要に応じて、できるだけ利用してみたい。
③ 今のところ利用は考えていない。
④ その他（ ）

家学【19】あなたの家庭（学校）で、2～3年の間に購入したいと考えている学習機器がありますか。次のいずれかの番号を□に記入してください。

- ① ある ② ない

家学【19-2】あると答えた人は、購入したい機器の名まえを□の中に記入してください。

(㉛2つ以上でもよろしいです。)

学【20】購入したい機器は、どんな教科（領域）の学習に利用したいと思っていますか。
の中に記入してください。

(㊥2つ以上でもよろしいです。)

学【21】購入希望の機器の価格はどのくらいですか。次の1～⑥の中から該当する項目を選んで、番号を の中に記入してください。

- | | |
|---------|----------|
| ① 2万円未満 | ④ 6～8万円 |
| ② 2～4万円 | ⑤ 8～10万円 |
| ③ 4～6万円 | ⑥ 10万円以上 |

以上

***備考 設問【1】の学習機器の説明**

イ. コンセプト映写機

スーパー8ミリ、シングル8ミリのフィルムのカートリッジ式で反復利用できる映写機。

オ. ビデオテープレコーダー

カートリッジテープ式、カセットテープ式、オープンリール式などがある。録画や再生ができる各種のビデオテープレコーダー。

キ. テープ式録音機（オープン）

録音、再生ができるオープンリール式のテープレコーダー。

ク. テープ式録音機（カセット）

録音、再生ができるカセット式のテープレコーダー。ラジオなし、ラジオ付の各種のテープレコーダーを含む。

コ. シート式録音機

再生だけと再生、録音の両方ができる磁気シートプレーヤーのこと。リコーのシンクロファックス、学研のシートラーンなどがある。

サ. ランゲージ・ラボラトリー

L L. ランゲージラボともいわれ、音声をイヤホン、又はヘッドホンで聞いたり、マイクで模倣、録音、相互通話ができる機器。主として語学練習用として利用されている。

シ. コンピューター

電子計算機を使って、プログラムに従い学習する機器。各種の機器と結びつき、問題を出し、答えを分析し、正解を教えるティーチングマシンシステムをとっている大型のコンピューター。

ス. マイクロコンピューター

マイクロコンピューターを使用し、プログラムにしたがって、学習できる機器。他の機器と結びつき、ティーチングマシンシステムをとっている小型のコンピューター。

セ. 電卓応用機器

電子卓上計算機、計算練習機、ソロバン練習機、漢字練習機、電子翻訳器などの卓上の機器。

*ア～セの機器のどこに該当するか不明の場合には、ソ、タの空欄に機器の名を記入していただければ結構です。